

有価証券報告書

第 74 期

自 2019年9月1日
至 2020年8月31日

大阪府中央区博労町二丁目3番9号

ヤマト インターナショナル株式会社

E00600

目次

頁

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	5
第2 事業の状況	6
1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	6
2. 事業等のリスク	8
3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	10
4. 経営上の重要な契約等	15
5. 研究開発活動	15
第3 設備の状況	16
1. 設備投資等の概要	16
2. 主要な設備の状況	16
3. 設備の新設、除却等の計画	16
第4 提出会社の状況	17
1. 株式等の状況	17
(1) 株式の総数等	17
(2) 新株予約権等の状況	17
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	17
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	17
(5) 所有者別状況	18
(6) 大株主の状況	18
(7) 議決権の状況	19
2. 自己株式の取得等の状況	20
3. 配当政策	20
4. コーポレート・ガバナンスの状況等	21
(1) コーポレート・ガバナンスの概要	21
(2) 役員の状況	27
(3) 監査の状況	32
(4) 役員の報酬等	34
(5) 株式の保有状況	35
第5 経理の状況	39
1. 連結財務諸表等	40
(1) 連結財務諸表	40
(2) その他	73
2. 財務諸表等	74
(1) 財務諸表	74
(2) 主な資産及び負債の内容	84
(3) その他	84
第6 提出会社の株式事務の概要	85
第7 提出会社の参考情報	86
1. 提出会社の親会社等の情報	86
2. その他の参考情報	86
第二部 提出会社の保証会社等の情報	87

[監査報告書]

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年11月24日
【事業年度】	第74期（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）
【会社名】	ヤマト インターナショナル株式会社
【英訳名】	YAMATO INTERNATIONAL INC.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 盤若 智基
【本店の所在の場所】	大阪府東大阪市森河内西一丁目3番9号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。） 大阪府東大阪市森河内西一丁目3番1号
【電話番号】	06(6747)9059番(ダイヤルイン)
【事務連絡者氏名】	執行役員 I R 経営企画室長 川島 祐二
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区平和島五丁目1番1号
【電話番号】	03(5493)5629番(ダイヤルイン)
【事務連絡者氏名】	執行役員 I R 経営企画室長 川島 祐二
【縦覧に供する場所】	ヤマト インターナショナル株式会社 東京本社 （東京都大田区平和島五丁目1番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月		2016年 8月	2017年 8月	2018年 8月	2019年 8月	2020年 8月
売上高	千円	21,566,004	18,704,551	16,540,915	16,818,297	14,252,386
経常利益又は経常損失(△)	千円	360,845	817,168	754,066	669,543	△760,345
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主に 帰属する当期純損失(△)	千円	△3,468,711	207,814	474,327	529,505	△1,295,504
包括利益	千円	△3,918,179	509,890	506,931	139,610	△1,200,582
純資産	千円	17,443,741	17,530,983	17,600,770	17,349,743	15,799,561
総資産	千円	24,624,706	23,769,374	23,387,678	23,394,930	20,917,690
1株当たり純資産	円	819.49	840.63	856.54	844.34	768.93
1株当たり当期純利益又は1株 当たり当期純損失(△)	円	△162.85	9.91	22.92	25.77	△63.05
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円	—	—	—	—	—
自己資本比率	%	70.8	73.8	75.3	74.2	75.5
自己資本利益率	%	—	1.2	2.7	3.0	—
株価収益率	倍	—	45.5	23.6	15.9	—
営業活動による キャッシュ・フロー	千円	278,838	403,445	580,296	734,886	△1,485,234
投資活動による キャッシュ・フロー	千円	△278,798	456,279	△2,238,748	238,581	△168,759
財務活動による キャッシュ・フロー	千円	△145,225	△510,426	△877,827	△374,811	△536,393
現金及び現金同等物の期末残高	千円	9,094,184	9,468,604	6,924,609	7,525,593	5,334,346
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	人	432 [1,331]	385 [1,182]	201 [1,078]	196 [1,103]	195 [1,134]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第71期、第72期及び第73期は潜在株式が存在しないため記載しておりません。第70期及び第74期は1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第70期における親会社株主に帰属する当期純損失は、主として中期構造改革に伴う固定資産の減損損失の計上等によるものであります。第74期における経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失は、主として新型コロナウイルス感染症の影響に伴う売上高の減少によるものであります。
4. 第70期及び第74期における自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。
5. 第70期及び第74期における株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
6. 第71期における従業員数の減少につきましては、中期構造改革に伴う早期退職優遇制度の特別募集を実施したことによるものであり、第72期における従業員数の減少につきましては、子会社上海雅瑪都時装有限公司が運営する上海工場の操業を停止したことによるものであります。
7. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第73期の期首から適用しており、第72期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月		2016年 8 月	2017年 8 月	2018年 8 月	2019年 8 月	2020年 8 月
売上高	千円	21,566,004	18,704,551	16,540,915	16,818,297	14,252,386
経常利益又は経常損失(△)	千円	315,722	778,596	739,891	631,802	△782,204
当期純利益又は 当期純損失(△)	千円	△3,497,328	445,107	478,126	246,762	△1,280,811
資本金	千円	4,917,652	4,917,652	4,917,652	4,917,652	4,917,652
発行済株式総数	千株	21,302	21,302	21,302	21,302	21,302
純資産	千円	17,081,222	17,329,682	17,413,940	17,066,354	15,563,883
総資産	千円	24,307,000	23,287,445	23,162,090	23,097,952	20,637,048
1株当たり純資産	円	802.46	830.98	847.45	830.55	757.46
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	円	12.00 (6.00)	12.00 (6.00)	19.00 (6.00)	17.00 (6.00)	12.00 (6.00)
1株当たり当期純利益又は1株 当たり当期純損失(△)	円	△164.19	21.22	23.10	12.01	△62.33
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円	—	—	—	—	—
自己資本比率	%	70.3	74.4	75.2	73.9	75.4
自己資本利益率	%	—	2.6	2.7	1.4	—
株価収益率	倍	—	21.3	23.4	34.1	—
配当性向	%	—	56.6	82.2	141.6	—
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	人	189 [1,269]	178 [1,131]	177 [1,034]	184 [1,061]	185 [1,089]
株主総利回り (比較指標：配当込みTOPIX)	% %	99.3 (88.3)	117.9 (109.8)	144.7 (120.3)	116.4 (107.4)	105.7 (117.9)
最高株価	円	431	485	692	540	418
最低株価	円	371	381	419	360	248

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第71期、第72期及び第73期は潜在株式が存在しないため記載しておりません。第70期及び第74期は1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第70期における当期純損失は、主として中期構造改革に伴う固定資産の減損損失の計上等によるものであります。第74期における経常損失及び当期純損失は、主として新型コロナウイルス感染症の影響に伴う売上高の減少によるものであります。

4. 第70期及び第74期における自己資本利益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第70期及び第74期における株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

6. 第70期及び第74期における配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

7. 第71期における従業員数の減少につきましては、中期構造改革に伴う早期退職優遇制度の特別募集を実施したことによるものであります。

8. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

9. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第73期の期首から適用しており、第72期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

- 1947年6月 盤若友治が1937年6月に創設したワイシャツ縫製を営む盤若商店を改組し、(株)ヤマト被服工業所を設立（大阪市東成区）
- 1953年12月 商号をヤマトシャツ(株)に変更
- 1956年9月 (株)たからやと合併
- 1957年2月 大阪市東区南久宝寺町に本社を移転
- 1963年8月 香港よりクロコダイル商標の商品（布帛シャツ、ニットシャツ）を輸入して販売を開始
- 1968年10月 大阪市東区（現 中央区）博労町に本社を竣工し、移転
- 1974年5月 (株)大阪プレスを吸収合併
- 1977年2月 当社全額出資による(株)ヤマトインターナショナルを設立
（1982年3月ヤマト マーチャンダイジング(株)に商号変更、2016年8月清算）
- 1979年5月 九州地区販売強化のため、福岡市博多区に福岡営業所を設置（2017年8月閉鎖）
- 1979年7月 クロコダイル商標をリセーミン カンパニイ セイデイリアンバーハッド（シンガポール共和国）より買取
- 1980年5月 日本証券業協会大阪地区協会に店頭売買銘柄として登録し、株式を公開
- 1982年3月 商号をヤマト インターナショナル(株)に変更
- 1982年7月 大阪証券取引所市場第二部に株式を上場
- 1987年5月 大阪証券取引所市場第一部銘柄に指定
- 1989年12月 東京支店を東京本社（大田区平和島）とし、大阪本社と両本社制を実施
- 1990年7月 東京都中央区日本橋堀留町にヤマト インターナショナル日本橋ビル（賃貸ビル）を新築竣工
- 1991年4月 大阪府東大阪市にデリポート（ロジスティックセンター）を新築
- 1993年1月 アウトドア市場に事業展開するため、エーグル・インターナショナル・エス・アー（フランス国）と「エーグル」ブランドのライセンス契約を締結（2017年2月終了）
- 1993年12月 当社全額出資によるヤマト ファッションサービス(株)（大阪市中央区博労町）を設立（現・連結子会社）
- 1994年4月 上海雅瑪都時装有限公司（中国上海市）を設立（2019年4月譲渡 連結範囲から除外）
- 2006年11月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- 2007年11月 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
- 2013年7月 東京証券取引所と大阪証券取引所の市場統合に伴い、大阪証券取引所市場第一部は、東京証券取引所市場第一部に統合
- 2016年8月 創業の地の一つでもあるデリポート（ロジスティックセンター）内に大阪本社事務所を移転
- 2016年9月 オンラインファッションレーベル「シテラ」の事業展開を開始
- 2017年4月 商標権を伊藤忠商事(株)と共同保有した米国発アウトドアファッションブランド「ペンフィールド」の事業展開を開始
- 2018年3月 ハワイ発カジュアルサーフブランド「ライトニングボルト」の商標権取得を発表

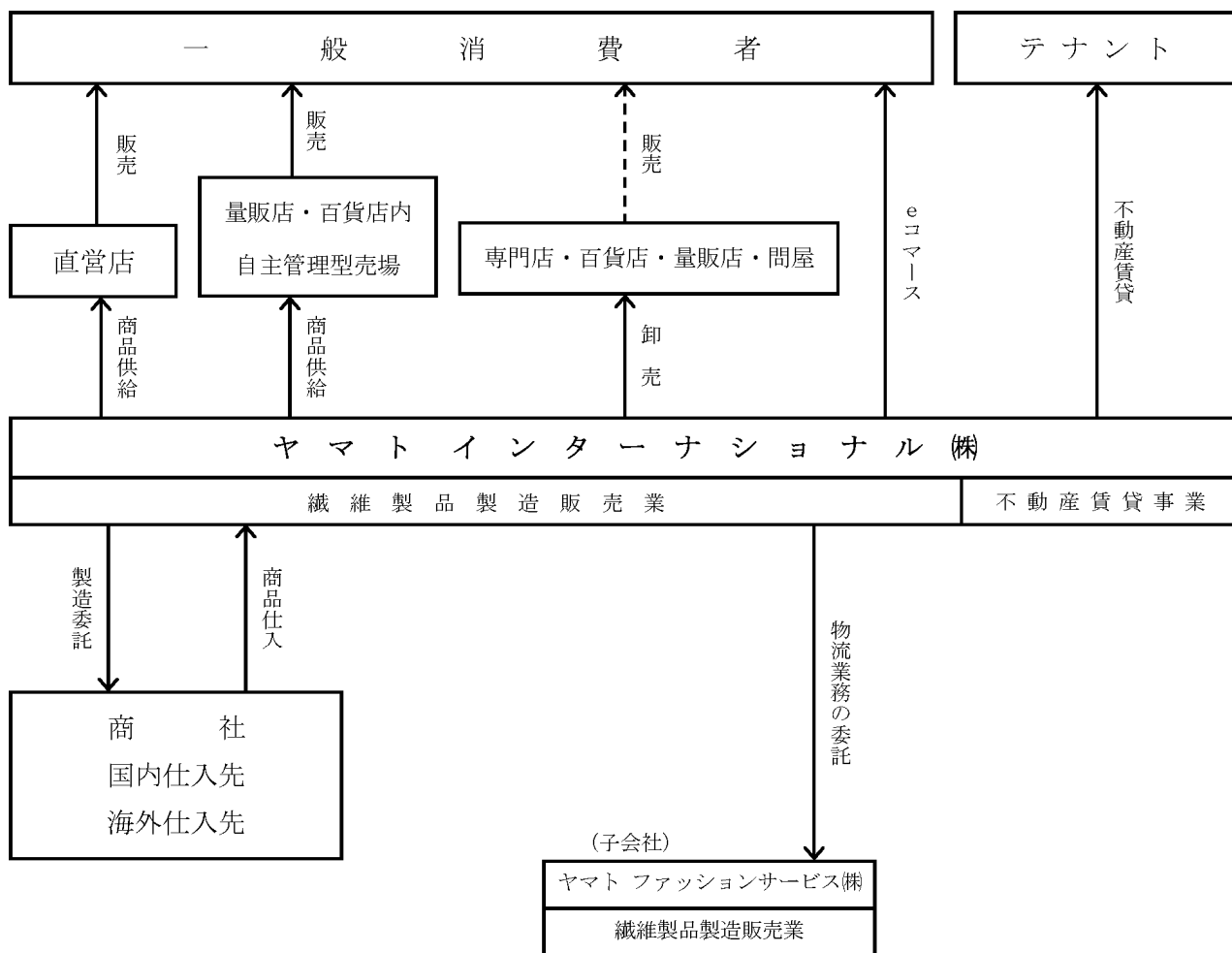
3 【事業の内容】

当社グループは、ヤマト インターナショナル株式会社（当社）及び連結子会社1社により構成され、繊維製品製造販売業及び不動産賃貸事業を行っております。当社グループの事業の内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

繊維製品製造販売業……………当社はカジュアルウェア中心のアパレル企業として、カットソーニット、布帛シャツ、横編セーター、アウター、ボトム、その他小物雑貨等の製造・販売並びにこれらに関連した事業を営んでおります。

子会社、ヤマト ファッションサービス株式会社は、当社商品の仕入先からの入荷、得意先への出荷及び在庫の管理等の物流業務を受託しております。

不動産賃貸事業……………当社において自社物件を有効活用するため不動産賃貸事業を営んでおります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) ヤマト ファッションサービス㈱	大阪市中央区	千円 30,000	繊維製品 製造販売業	100	当社物流業務の委託。役員の兼任あり。

(注) 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年8月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
繊維製品製造販売業	151 (1,106)
全社 (共通)	44 (28)
合計	195 (1,134)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は () 内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 全社 (共通) として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているのものであります。

(2) 提出会社の状況

2020年8月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢 (才)	平均勤続年数 (年)	平均年間給与 (円)
185 (1,089)	43.3	19.4	5,726,889

セグメントの名称	従業員数 (人)
繊維製品製造販売業	141 (1,061)
全社 (共通)	44 (28)
合計	185 (1,089)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は () 内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与その他の臨時給与を含んでおります。
3. 全社 (共通) として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているのものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は、ヤマト インターナショナル労働組合と称し、提出会社の大阪本社に同組合本部が、また、東京本社に支部が置かれ、2020年8月31日現在における組合員数は866名で、U Aゼンセン製造産業部門に加盟しております。

なお、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社は2017年6月に迎えた会社設立70周年を経た現在、改めて原点である顧客起点に立ち返り「ものを創り 人を創り お客様と共に心豊かな毎日を創る」という不変のミッションのもと、中期ビジョン「Yamato2023」を始動しております。

時代・市場・環境は常に変化し、企業はその変化を敏感に察知し、柔軟に対応し、その時々でベストなパフォーマンスをしていかなければ生き残っていくことができないと考えます。

今後当社が更なる成長を遂げるためには、時代に適合した戦略を実践していくことが不可欠であります。メーカー一発アパレル企業として当社が取り組んできた安心安全で高品質な商品の提供は今後も継続してまいります。時代の流れとともに物づくり以外にも求められる価値は益々多様化しております。転換期を迎えた人々のライフスタイルや価値観が様変わりする中、いつの時代でもお客様に求められ続ける真のブランド創りを目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社は、株主資本の効率的運用及び収益性の追求の観点から、ROE（自己資本当期純利益率）を重要な経営指標ととらえ、その向上を目指して経営に取り組んでおります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、中長期的な経営戦略として中期ビジョン「Yamato2023」を始動しております。

当社最大の基幹ブランドである「クロコダイル」は、ライフスタイルテーマ「クロコダイルTrad2020」のもと、改めて顧客起点に立ち返り、ブランドコンセプトに基づいた既顧客の満足度向上と活性化につながる商品の強みや付加価値を戦略的に構築し、また潜在顧客が興味を持ち共感できる新しいスタイルを提案してまいります。さらに商品・店・コミュニケーション等すべてにおいて一貫性を保ち提供することで、お客様のブランドに対する認知・認識を深め顧客を獲得し、事業の持続的成長を目指してまいります。新規事業である「CITERA」は、“アクティブ・トランスファー・ウェア”をテーマにスタンダードなスタイルにテクノロジーを用いた素材や機能を持たせ、都市内都市間の移動を「より快適」で「よりスマート」にするフリクションレスで利便性の高い商品の開発に注力するとともに、新しいファンクションやサービスへの投資を積極的に行うことで、更なる売上拡大を目指してまいります。また、米国発アウトドアファッションブランド「Penfield（ペンフィールド）」と、ハワイ発カジュアルサーフブランド「Lightning Bolt（ライトニングボルト）」はブランド認知度と価値向上に注力し、ライセンス事業の拡大を目指してまいります。

また、株主還元と成長投資のバランスを重視し、業績と連動した高配当かつ安定配当の実施に努め、より一層の株主価値・企業価値の向上を目指してまいります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

来期の展望としましては、消費増税による衣料品に対する根強い節約志向に加え、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明である中で、国内外の経済活動の停滞による個人消費の落ち込みも懸念され、当社を取り巻く環境の先行き不透明感は継続するものと思われま。現時点で、新型コロナウイルス感染症の収束時期や影響を正確に予測することは困難ではありますが、今後の状況によっては、各商業施設・直営店舗における営業時間の短縮及び臨時休業等が実施され、既存店舗の稼働率が低下し売上高が減少する等、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このような状況の中、当社グループは、原点である顧客起点に立ち返り「ものを創り 人を創り お客様と共に心豊かな毎日を創る」という不変のミッションのもと、3年後のあるべき姿を目指し、中期ビジョン「Yamato2023」を始動しております。大きな転換期を迎えた人々のライフスタイルや価値観が様変わりする中、いつの時代でもお客様に求められ続ける真のブランド創りを目指してまいります。

また、現コロナ禍を切り抜け、将来にわたり継続的に利益を残せる企業へ向けた構造改革に着手しながら、①収益率を高める分野（GMS）②売上を徹底的に伸ばす分野（EC/CITERA）③将来の成長基盤を確立する分野（直営）、それぞれの戦略を着実に実行することで事業構造の転換を図ってまいります。

①収益率を高める分野（GMS）については、ミッションである「もの創り」「人創り」に基づき、顧客起点で商品開発・店舗運営・販売を推し進めることで既顧客の活性化と潜在顧客の獲得に努め、収益率を高めながら店舗当たりの売上向上を目指してまいります。

②売上を徹底的に伸ばす分野（EC/CITERA）については、成長著しいEC事業への積極投資により、既顧客に加え店舗で獲得した新規登録会員に向けた販売を強化。また、特にレディースを重視し、EC専用商品の開発も試みながら潜在顧客をも取り込むことで更なる成長拡大を図ってまいります。

③将来の成長基盤を確立する分野（直営）については、直営店をECと共に将来の成長領域と位置付け、潜在顧客の獲得を目指し、改めて商品と店舗の原型をつくることから再スタートいたします。

これら一つ一つの戦略を確実に実行することで事業構造の転換を図り、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。記載内容のうち将来に関する事項は、提出日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

(1) 特定製品への依存によるリスク

当社グループが展開するブランドのうち基幹ブランドであります「クロコダイル」が、当連結会計年度において占める売上高構成比は、89.4%と非常に大きな比重となっております。当ブランドの売上動向によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 消費者の嗜好の変化等によるリスク

当社グループが取り扱う衣料品は、比較的ファッショントレンドの変化に左右されないアダルト層をターゲットにしたものやアウトドア分野の商品の比率が高くなっておりませんが、景気変動の影響による個人消費の低迷や競合する同業他社の動向に加え、消費者の嗜好の変化によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 顧客の少子高齢化に伴うリスク

当社グループが展開するブランドには、売上高構成比は高くはありませんがファッション動向に敏感な年代をターゲットとしたものもあり、少子化によって購買層の減少が懸念されます。また、他の年代をターゲットとしたブランドに関しても高齢化によって、将来的には購買層の減少といった問題が発生する可能性があり、これらの問題によって、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 新規開発事業によるリスク

当社グループでは、特定製品への依存回避及び企業価値を向上させるために、消費者ニーズや市場動向に対応した新規業態やブランドの開発に積極的に取り組んでおります。新規開発事業については、十分な市場調査を行っておりますが、市場環境の急激な変化によっては当初計画が達成されない場合もあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 天候等、自然災害によるリスク

当社グループが取り扱う衣料品等の売上高は、冷夏暖冬等の異常気象や、台風や地震等の自然災害によって減少することが考えられます。特に売上高比率の高い冬季の天候不順や異常気象は、当社グループの業績に大きく影響を及ぼす可能性があります。

(6) 新型コロナウイルス感染症および新型インフルエンザ等の伝染病によるリスク

新型コロナウイルス感染症の拡大や、新型インフルエンザ等の伝染病が日本国内で流行した場合、店舗の営業時間の短縮や臨時休業の実施等、事業の一部中断や消費が減少する恐れがあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、当連結会計年度におきまして、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各商業施設・直営店舗の営業時間の短縮及び臨時休業等が実施されたことにより、既存の店舗における稼働率が低下する等、売上高が減少し当社グループの業績に大きな影響を与えております。

現時点で、新型コロナウイルス感染症の収束時期や、その影響を正確に予測することは困難であり、今後の状況によっては、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 品質に関するリスク

当社グループが取り扱う衣料品の品質を維持することは、消費者からの信頼を得ると同時に、企業及びブランドイメージの維持につながることを認識しており、厳しい品質基準による管理を行っております。

このような管理体制にも関わらず、品質面での問題や製造物責任に関する事故が発生した場合には、企業及びブランドイメージの低下や損害賠償の請求等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 店舗出退店に関するリスク

当社グループが運営する直営店舗は賃借契約を締結することが基本であり、出店にあたり敷金・保証金を差入れ、内・外装等の初期投資費用を掛けており、出店後も人件費及び家賃等が継続的に発生いたします。

そのため、政策により出店が増加すれば関連費用も比例して増加いたします。その際、賃貸人の倒産等によって敷金・保証金の全部または一部が回収できなくなる可能性があります。

なお、ショッピングセンターやGMS等へ出店している場合は、売上高如何または閉館等によってデベロッパーからの退店要請を受けることがあります。

また、新規出店に関しましては、ショッピングセンター等の出店計画が遅れるといった理由によって、会社の店舗政策が計画通りに進まないこともあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 店頭販売員の増加に関するリスク

当社グループが運営する直営店を主とする小売・自主管理型売場が増加することにより、店頭販売員数も増加することとなり、人件費、採用関連費用等の費用負担が発生いたします。また、売場は全国で展開しており、地域によっては販売員を採用することが困難な場合や、顧客サービス向上のための教育が徹底されないこともあり、当社グループの企業イメージや業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 海外におけるリスク

当社グループは、仕入に関しては中国を中心としたアジア諸国からの輸入比率が高水準にあります。それに伴い、為替レートの変動、テロや戦争等の政情不安、天災、SARS等の伝染病といったリスクが発生する恐れがあり、その結果、原価の高騰並びに、工場操業や製品輸入が困難になるといったリスクが発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 知的財産権に関するリスク

当社グループでは国内外で商標権を所有し、管理・運営を行っておりますが、第三者による当社グループの権利侵害等により、企業またはブランドイメージの低下等の悪影響を受けることもあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 取引先に関するリスク

当社グループは、製造・卸・小売業として数多くの取引先を有しておりますが、取引先の信用度については、信用情報を検討し、常時取引先の経営状況を把握する体制を整えております。しかし予期せぬ経営破綻等により貸倒損失を計上する場合もあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、GMS・百貨店等の取引については、今後、取引条件等の変更内容によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 個人情報に関するリスク

当社グループは、小売・自主管理型売場や通信販売等を通じて多くの個人情報を所有しており、これらの取り扱いについては管理体制を整備し細心の注意を払っておりますが、犯罪行為や管理面での問題により情報漏洩が発生した場合、社会的な信用問題や個人に対する賠償問題等が発生することがあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 法的規制に関するリスク

当社グループでは法令遵守の重要性を強く認識し、商品の販売、仕入れ、情報管理において、景品表示法、独占禁止法、下請法、個人情報保護法等の法律の遵守を徹底しております。

しかしながら、社内でのコンプライアンス意識の徹底にも関わらず、法律違反を起こし損害賠償等の問題が発生した場合、あるいは法改正された場合、その内容によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 税制の改正に伴うリスク

当社グループの事業は主として衣料品を取り扱っており、税制の改正、例えば消費税の引き上げ等が実施された場合、個人消費が低迷することも考えられ、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状況、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概況は次のとおりであります。

①財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用・所得環境の改善を背景にこれまで緩やかな回復傾向が続いておりましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により経済活動が大きく停滞し景況感が急速に悪化する等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

一方、当アパレル・ファッション業界におきましては、消費増税による根強い節約志向に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う商業施設の臨時休業や人々の外出自粛等による影響も大きく、極めて厳しい状況が続きました。

このような経営環境の中、当社グループは、現コロナ禍を切り抜け継続的に利益を残せる企業へ向けた構造改革に着手する中で「ものを創り 人を創り お客様と共に心豊かな毎日を創る」という不変のミッションのもと、3年後のあるべき姿を目指し、中期ビジョン「Yamato2023」を始動しております。大きな転換期を迎えた人々のライフスタイルや価値観が様変わりする中で、いつの時代でもお客様に求められ続ける真のブランド創りを目指してまいります。

基幹事業である「クロコダイル」は、販売開始から半世紀以上が経ち、現在のGMSにおける自主管理売場の展開開始から20年の経過を機に「クロコダイルTrad2020」を掲げました。改めて原点である「顧客起点」に立ち返り、ミッションに基づいた「もの創り」「人創り」を実践するべく、既顧客の満足度向上と活性化に繋がる価値創造に注力するとともに、これからの潜在顧客が興味を持ち共感できる価値を創造し、商品・店・コミュニケーション等すべてにおいて一貫性を保ち提供することで更なるブランドの認知・認識を深め、事業の持続的な成長を目指してまいります。

新規事業では、“アクティブ・トランスファー・ウェア”をテーマとした「CITERA（シテラ）」と米国発アウトドアファッションブランド「Penfield（ペンフィールド）」を展開しております。ブランドの顔となる商品開発に注力するとともに、新しいファンクションやサービスへの投資を積極的に行い、WEBマーケティングやPop-upストアの展開を筆頭に、当社が直接運営する事業に加え、国内外のライセンス展開も目指してまいります。また、日本国内における商標権を取得したハワイ発カジュアルサーフブランド「Lightning Bolt（ライトニングボルト）」は、従来のライセンスパートナーによる専門店向け卸に加え、新たなパートナーと共に立ち上げたトップライン「Lightning Bolt Black Label（ライトニングボルトブラックレーベル）」によるブランド認知度と価値向上に注力し、ライセンス事業の拡大を目指してまいります。

一方、当社グループの物流業務を請負う子会社ヤマト ファッションサービス株式会社では、在庫管理や入出荷業務の精度向上に努めるとともに、新たに導入した自動ソーターが本格稼働し始める等、積極的な投資を行うことで更なる業務の生産性向上を図っております。

以上の結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

(ア) 財政状態

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は、90億9千5百万円となり、前連結会計年度末と比べ22億5千万円減少いたしました。現金及び預金と有価証券を合わせた手元流動性資金は75億2千5百万円から21億9千1百万円減少し、53億3千4百万円となりました。

当連結会計年度末における固定資産は、118億2千2百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億2千7百万円減少いたしました。主な要因は、無形固定資産が8千5百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は209億1千7百万円となり、前連結会計年度末と比べ24億7千7百万円減少いたしました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は40億1千万円となり、前連結会計年度末と比べ10億1千5百万円減少いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金が2億7千5百万円、電子記録債務が3億4千万円、その他の流動負債が1億9千5百万円、それぞれ減少したこと等によるものであります。

当連結会計年度末における固定負債は11億7百万円となり、前連結会計年度末と比べ8千8百万円増加いたしました。主な要因は、繰延税金負債が2億9百万円新たに発生し、長期借入金が1億1千7百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は51億1千8百万円となり、前連結会計年度末と比べ9億2千7百万円減少いたしました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は157億9千9百万円となり、前連結会計年度末と比べ15億5千万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金が16億4千4百万円減少し、その他有価証券評価差額金が1億1千8百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は75.5%（前連結会計年度末は74.2%）となりました。

(イ) 経営成績

当連結会計年度における連結業績は、新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受け、売上高が142億5千2百万円（前年同期比15.3%減）と減収になりました。利益面では、売上総利益率は42.1%（前年同期比3.3ポイント減）となり、販売費及び一般管理費は69億2千9百万円（前年同期比1.8%減）、営業損失は9億2千3百万円（前年同期は営業利益5億8千2百万円）、経常損失は7億6千万円（前年同期は経常利益6億6千9百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は、12億9千5百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益5億2千9百万円）となりました。

セグメントごとの売上高では、繊維製品製造販売業139億4千6百万円（前年同期比15.5%減）、不動産賃貸事業3億6百万円（前年同期比2.1%減）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により14億8千5百万円、投資活動により1億6千8百万円、財務活動により5億3千6百万円、それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末と比べ21億9千1百万円減少し、当連結会計年度末には53億3千4百万円となりました。

なお、当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は14億8千5百万円（前年同期は得られた資金7億3千4百万円）となりました。主な要因は、税金等調整前当期純損失10億2千8百万円、減価償却費2億2千2百万円、減損損失1億7千5百万円、仕入債務の減少額6億1千6百万円、売上債権の減少額3億5千4百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1億6千8百万円（前年同期は得られた資金2億3千8百万円）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出3億2千5百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入2億7千3百万円、投資有価証券の取得による支出1億5百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は5億3千6百万円（前年同期は使用した資金3億7千4百万円）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出2億2千9百万円、配当金の支払額3億4千9百万円等によるものであります。

③ 生産、受注及び販売の実績

(1) 生産実績

当連結会計年度は当社グループ内での生産は行っておりませんので、記載を省略しております。

(2) 仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(アイテム別)

セグメントの名称		金額 (千円)	前年同期比 (%)
繊維製品製造販売業	カットソーニット	2,370,896	89.5
	布帛シャツ	1,421,773	90.1
	横編セーター	1,060,787	103.0
	アウター	2,487,395	98.8
	ボトム	671,675	81.3
	小物・その他	360,898	66.1
	計	8,373,427	91.6
不動産賃貸事業		—	—
合計		8,373,427	91.6

(顧客別)

セグメントの名称		金額 (千円)	前年同期比 (%)
繊維製品製造販売業	メンズ	4,874,664	91.7
	レディース	3,494,884	91.4
	その他	3,877	67.0
	計	8,373,427	91.6
不動産賃貸事業		—	—
合計		8,373,427	91.6

(注) 1. 金額は、仕入価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

受注生産を行っていないため、記載を省略しております。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

①セグメント販売実績

(アイテム別)

セグメントの名称		金額 (千円)	前年同期比 (%)
繊維製品製造販売業	カットソーニット	4,017,107	83.8
	布帛シャツ	2,428,526	81.7
	横編セーター	1,829,143	96.1
	アウター	3,785,857	83.8
	ボトム	1,141,790	83.0
	小物・その他	743,753	79.2
	計	13,946,177	84.5
不動産賃貸事業		306,208	97.9
合計		14,252,386	84.7

(顧客別)

セグメントの名称		金額 (千円)	前年同期比 (%)
繊維製品製造販売業	メンズ	7,769,956	83.6
	レディース	6,052,138	85.6
	その他	124,083	85.8
	計	13,946,177	84.5
不動産賃貸事業		306,208	97.9
合計		14,252,386	84.7

(注) 1. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)		当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)	
	金額 (千円)	比率 (%)	金額 (千円)	比率 (%)
イオングループ	4,518,722	26.9	3,914,741	27.5
株式会社イトーヨーカ堂	4,133,305	24.6	3,242,172	22.7
ユニー株式会社	2,373,835	14.1	1,896,636	13.3

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

②ブランド別販売実績

区分	金額 (千円)	構成比 (%)	前年同期比 (%)
クロコダイル	12,747,902	89.4	84.3
その他	1,504,483	10.6	88.6
合計	14,252,386	100.0	84.7

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

①重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。連結財務諸表の作成は、決算日における資産・負債の報告数値、報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りを必要とします。これらの見積りは過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる方法により行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため実際の結果と異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

②当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度の財政状態の分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ①財政状態及び経営成績の状況 (ア) 財政状態」をご参照ください。

③当連結会計年度の経営成績の分析

(ア) 売上高

当連結会計年度における売上高は、142億5千2百万円と、前年同期の168億1千8百万円と比べ25億6千5百万円の減少となりました。

基幹事業である「クロコダイル」につきましては、まず上期における消費増税や気象災害、さらには暖冬等による影響を想定以上に受けた結果となり、MD設計・在庫・粗利率等の個別の課題克服に向けた戦略を描き下期に臨みました。しかしながら、3月以降新型コロナウイルスの感染拡大に伴う商業施設の臨時休業や人々の外出自粛等により来店客数が減少したことで、第3四半期(3～5月)における既存店売上は前年同期比約50%となり、本来最盛期となる春夏プロパー販売の落ち込みにより利益面への影響も強く受けました。第4四半期(6～8月)における既存店売上は前年同期比約90%と回復基調となるものの、クロコダイルグループの年間売上高は前年同期と比較して16%の減収となりました。一方、現コロナ禍におけるチャネル戦略で最も重要な位置づけと言っても過言ではないEコマースは、デジタルとアナログを効果的に融合したマーケティングや利便性向上を目指した新サービスの導入、さらに「クロコダイル」アプリもスタートする等積極的な投資を行った結果、「クロコダイル」の会員数は前年同期比37%増の約27万人に達し、その売上も前年同期比31%増、新規事業も加えた全社EC売上は前年同期比34%増と引き続き高い伸び率を継続しております。

(イ) 売上総利益率、販売費及び一般管理費、営業損益

当連結会計年度における売上総利益率は、上期の増税・気象災害・暖冬等の影響によるプロパー販売不振、および下期の新型コロナウイルス感染症の影響による不採算ブランドの整理等に伴う在庫適正化を行ったことで42.1%(前年同期比3.3ポイント減)となりました。

販売費及び一般管理費は、新たな会員獲得に向けた新サービスの導入や、テレコマースを主目的とした新聞広告等、優位性を生む事業への先行投資を行いながらも、コロナ禍において徹底した経費の見直しや無駄の排除を行ったことで、前年同期の70億5千8百万円と比べ1億2千8百万円の減少となっております。

この結果、当連結会計年度における営業損失は、9億2千3百万円となり、前年同期の営業利益5億8千2百万円と比べ15億6百万円の減益となりました。

(ウ) 税金等調整前当期純損益

当連結会計年度における税金等調整前当期純損失は、10億2千8百万円となり、前年同期の税金等調整前当期純利益6億8千8百万円と比べ17億1千7百万円の減益となりました。前年同期に発生しなかった特別利益の投資有価証券売却益、特別損失の減損損失が当連結会計年度に発生したことが主な要因であります。

(エ) 親会社株主に帰属する当期純損益

これらの結果、親会社株主に帰属する当期純損失は、12億9千5百万円となり、前年同期の親会社株主に帰属する当期純利益5億2千9百万円と比べ18億2千5百万円の減益となりました。

④当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ②キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2016年8月期	2017年8月期	2018年8月期	2019年8月期	2020年8月期
自己資本比率 (%)	70.8	73.8	75.3	74.2	75.5
時価ベースの自己資本比率 (%)	33.5	39.6	47.4	35.9	35.0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	5.1	3.4	1.6	1.3	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	13.6	20.0	38.8	103.0	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

(注2) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(注3) キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

(注4) 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

(注5) 2020年8月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオは営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスのため記載しておりません。

⑤経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「2 事業等のリスク」をご参照ください。

⑥資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金及び設備投資資金は、主として営業活動によるキャッシュ・フローである自己資金により充当し、必要に応じて金融機関からの借入を実施することを基本方針としております。

この方針に従い、当連結会計年度における運転資金及び設備投資資金については、自己資金により充当しました。

今後の資金需要のうち、主なものは、運転資金の他、店舗の出店及び改修などの設備投資資金等であります。これらの資金についても、基本方針に基づき、主に自己資金により充当する予定であります。必要に応じて金融機関からの借入を実施する等、負債と資本のバランスに配慮しつつ、必要な資金を調達してまいります。

⑦経営方針、経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、株主資本の効率的運用及び収益性の追求の観点から、ROE（自己資本当期純利益率）を重要な経営指標ととらえ、その向上を目指して経営に取り組んでおります。

当連結会計年度におけるROEは、△7.8%と前年同期比10.8ポイント減少しました。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

特に記載すべき事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施した当社グループの設備投資の総額は、270,941千円であり、主なものは次のとおりであります。

(繊維製品製造販売業)

物流自動ソーター導入 173,977千円

なお、設備投資資金は自己資金でまかなっております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2020年8月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額 (千円)					従業員数 (人) [臨時従業員]	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
東京本社 (東京都大田区) (注) 5	繊維製品 製造販売業 不動産賃貸 事業	営業設備 賃貸設備	442,259	—	2,082,471 (6,427)	12,507	48,454	2,585,692	120 [475]
大阪本社 (デリポート内) デリポート (ロジスティック センター) (大阪府東大阪市)	繊維製品 製造販売業	営業設備 物流倉庫	636,003	132,235	1,042,445 (7,273)	13,910	33,959	1,858,555	63 [594]
直営店 (クロコダイル土岐店他14 店舗) (注) 4	繊維製品 製造販売業	店舗	7,618	—	— (—)	—	13	7,631	2 [20]
旧大阪本社跡地 (大阪市中央区) (注) 5	不動産賃貸 事業	賃貸土地	655	—	968,534 (1,371)	—	—	969,189	— [—]
旧石切倉庫跡地 (大阪府東大阪市) (注) 5	不動産賃貸 事業	賃貸土地	—	—	81,256 (1,945)	—	—	81,256	— [—]
賃貸マンション (大阪府東大阪市) (注) 5	不動産賃貸 事業	賃貸設備	14,498	—	17,417 (75)	—	—	31,916	— [—]
日本橋ビル (東京都中央区) (注) 5	不動産賃貸 事業	賃貸設備	210,791	16,130	986,943 (510)	—	—	1,213,864	— [—]

(2) 国内子会社

2020年8月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額 (千円)					従業員数 (人) [臨時従業員]
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
ヤマト ファッショ ンサービス(株)	本社 (大阪市中央区)	繊維製品 製造販売業	営業設備	—	—	— (—)	141	141	10 [45]

- (注) 1. 各資産の金額は、帳簿価額であります。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 帳簿価額の「その他」は、工具、器具及び備品であります。
 4. 連結会社以外から、建物を賃借しております。
 5. 連結会社以外へ賃貸しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

特に記載すべき重要な事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	71,977,447
計	71,977,447

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2020年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,302,936	21,302,936	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式で あり、権利内容に 何ら限定のない当 社における標準と なる株式であり、 単元株式数は100 株であります。
計	21,302,936	21,302,936	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2015年10月27日 (注)	△1,200,000	21,302,936	—	4,917,652	—	1,229,413

(注) 発行済株式総数の減少は、その他資本剰余金による自己株式の消却であります。

(5) 【所有者別状況】

2020年8月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	－	17	21	114	42	20	14,770	14,984	－
所有株式数（単元）	－	42,083	4,190	50,777	2,826	171	112,518	212,565	46,436
所有株式数の割合（％）	－	19.80	1.97	23.89	1.33	0.08	52.93	100.00	－

(注) 1. 自己株式755,453株のうち755,400株（7,554単元）は「個人その他」欄、53株は「単元未満株式の状況」欄にそれぞれ含めて表示しております。

2. 上記「その他の法人」の中には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が40単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（％）
セネシオ有限会社	東京都港区白金台2-27-9-207	2,600	12.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2-11-3	1,071	5.21
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,021	4.96
盤若 智基	東京都港区	596	2.90
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	574	2.79
藤原 美和子 （常任代理人 セネシオ有限会社）	Khan Chamcarmon, Phnom Penh Cambodia （東京都港区白金台2-27-9-207）	374	1.82
盤若 真美	東京都品川区	353	1.71
株式会社大林組	東京都港区港南2-15-2	330	1.60
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2-2-1	308	1.49
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1-2-1	300	1.46
計	－	7,529	36.64

(注) 1. 上記のほか、自己株式が755千株あります。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） 1,071千株

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年8月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 755,400	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 20,501,100	205,011	—
単元未満株式	普通株式 46,436	—	—
発行済株式総数	21,302,936	—	—
総株主の議決権	—	205,011	—

(注) 上記「完全議決権株式 (その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が4,000株 (議決権の数40個) 含まれております。

② 【自己株式等】

2020年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
ヤマト インターナショナル株式会社	大阪市中央区博労町二丁目3番9号	755,400	—	755,400	3.55
計	—	755,400	—	755,400	3.55

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	740	282,729
当期間における取得自己株式	86	30,100

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年11月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	755,453	—	755,539	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年11月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3【配当政策】

当期の株主に対する配当額の決定につきましては、基本的に収益に対して配当を行うべきものと考えております。

当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の株主配当金につきましては、2020年7月10日に公表いたしました「配当予想の修正に関するお知らせ」に従い、1株当たりの期末配当6円、年間配当金12円(中間期6円、期末6円)と決定いたしました。

次期の株主配当金につきましては、2021年8月期の連結業績予想を見通すことが困難であることから、現時点では未定とさせていただきます。今後、2021年8月期の連結業績予想の開示が可能となった段階で、配当予想についても公表いたします。

また、内部留保資金につきましては、業界における環境変化や企業間競争の激化に耐え得る企業体質の強化、並びに将来の事業展開を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2020年4月10日 取締役会決議	123,286	6
2020年11月20日 定時株主総会決議	123,284	6

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

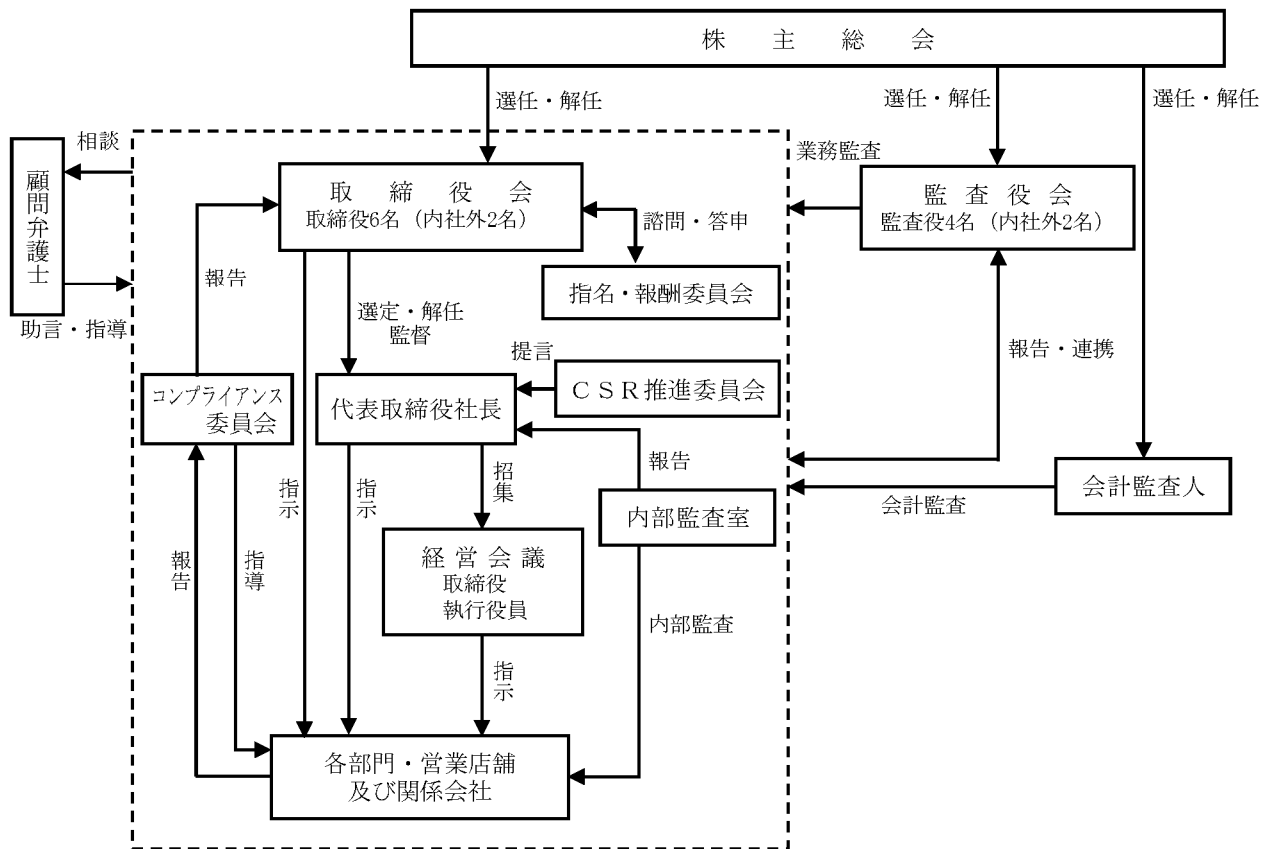
当社は、コーポレート・ガバナンス（企業統治）とは、株主をはじめ様々な利害関係者（ステークホルダー）との関係における企業経営のあり方であると理解しております。具体的には次のとおりであります。

経営監督機能	経営者の業務執行が適切かつ効率的に行われているかを評価し、監視・監督機能を強化させる。
企業倫理の確立	経営理念をもとに、コンプライアンス・ポリシー（企業行動憲章）を具現化していく。
リスクマネジメント	当社製品の品質面等による事故や顧客に及ぼす影響等、様々なリスクを未然に防ぐ管理体制を確立する。
コンプライアンス	役員、従業員一人ひとりが倫理観を持って行動し、法令・社内規則等を遵守する意識を強く持つよう啓蒙していく。
アカウンタビリティ	企業の情報を積極的にディスクローズし、その内容、結果について責任を持つ。
経営効率の向上	経営における効率的なシステムの構築とコスト削減を図り、自己資本当期純利益率の向上を目指す。

以上のほか、長期的な観点から、健全な企業業績を確保し、利害関係者に対して責任を持つ経営体制を確立いたします。

②企業統治の体制の概要

当社におけるコーポレート・ガバナンスの体制の模式図は、次のとおりであります。



当社は監査役会設置会社であり、企業統治に関して設置する主な機関は取締役会、監査役会、経営会議、指名・報酬委員会であります。

取締役会は、提出日現在において、議長を務める代表取締役社長（盤若智基）並びに、取締役3名（奥中信一、梅川実、中野雅敏）及び社外取締役2名（岩田宜子、北村禎宏）の計6名で構成され、定例の取締役会を毎月1回以上開催するほか、必要のある場合は臨時の取締役会を開催し、経営の基本方針、重要な業務執行、適時開示等に関する事項の意思決定を行うとともに、各取締役による業務報告を適宜行い、業務執行を相互に監督しております。また、取締役の内、2名は独立性の高い社外取締役を選任しており、業務執行に対する監督機能の強化と経営

の透明性の確保に努めております。なお、取締役の任期は1年とし、経営環境の変化により迅速に対応できる体制を整えております。

監査役会は、常勤監査役2名（議長：船原淳一、市原英之）、社外監査役2名（和田正宏、細川良造）の計4名で構成され、定例の監査役会を毎月1回以上開催するほか、必要のある場合は臨時監査役会を開催し、監査の方針・計画等の決定、監査結果の協議等を行っております。また、各監査役は取締役会並びに社内の重要会議に出席し、業務執行の監査を適宜実施しております。なお、社外監査役2名は独立性と専門性を重視して選任しており、経営からの独立性、客観性の確保に努めております。

また、当社では執行役員制度を導入しており、意思決定の迅速化及び業務執行の効率化を図っております。

この他に、取締役会を補完する目的で、代表取締役社長が主宰する経営会議を設置しており、当社取締役及び代表取締役社長の指名する執行役員等で構成されております。当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項について事前に経営会議において議論を行い、その審議を経て業務執行の決定を行っております。

また、取締役会の任意の諮問機関である指名・報酬委員会は、独立役員（独立社外取締役及び独立社外監査役）を過半数とする委員3名以上で構成され、代表取締役社長を委員長とし、主として取締役の選任・解任に関する事項、取締役の報酬等に関する事項等について審議し、取締役会に答申しております。

③企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役による監査体制の強化・充実により、コーポレート・ガバナンスの実効性を確保することが当社にとって最適であると判断し、企業統治の体制として監査役会設置会社の形態を採用しております。監査役は取締役会や重要な会議に出席し、経営の意思決定プロセスの適法性・妥当性を監視することにより、経営の透明性と健全性を担保しております。また、独立性の高い社外取締役及び社外監査役を選任することにより、適正な意思決定や業務執行に対する監督機能を担保しております。これらの取組み等を通じて、当社のコーポレート・ガバナンス体制は有効に機能しているものと考え、当該体制を採用しております。

④企業統治に関するその他の事項

（ア）内部統制システムの整備の状況

取締役会は、経営意思決定と取締役の業務執行を監督する機関と位置付け、毎月開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

取締役会の決定方針に基づく執行方針の審議機関として経営会議を設置し、経営環境に迅速に対応するため、必要に応じて開催しております。

法律面では、顧問弁護士よりコンプライアンスの観点から必要に応じてアドバイスを受けております。

なお、当社の内部統制システムに関しましては、以下の基本的な考え方に従い整備を行っております。

a. 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンス体制の基礎として、コンプライアンス・ポリシー（企業行動憲章）を定め、それを子会社を含めた全役職員に周知徹底させております。

社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス・プログラムを策定し、それを実施しております。

「コンプライアンス基本規程」及び「コンプライアンス・マニュアル」を制定し、全役職員に対し、コンプライアンスに関する研修を行うことにより、コンプライアンスの知識を高め、コンプライアンスを尊重する意識を醸成しております。

全役職員が、当社における重大な法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合の社内報告体制として、コンプライアンス・ホットライン（内部通報制度）を構築し、運用しております。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の意思決定または取締役に対する報告に関しては、文書の作成、保存及び廃棄に関する「文書取扱規程」に基づき行うものとしております。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社及び子会社の経営に重大な影響を及ぼすリスクについては、「リスク管理規程」及びそれに付帯するマニュアル等に従い対応し、必要に応じて研修等を行うものとしております。また、新たに生じたリスクについては、速やかに対応責任者となる取締役を定めるものとしております。

組織横断的リスク状況の監視は内部監査室が行い、全社的対応はIR経営企画室が行うものとしております。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催するものとし、当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については、事前に経営会議において議論を行い、その審議を経て執行決定を行うものとしております。

取締役会の決定に基づく業務執行については、「組織および分掌規程」、「職制規程」及び「職務権限規程」において、それぞれの責任者及びその責任、執行手続きの詳細について定めております。

取締役会により承認された中期経営計画及び年度利益計画に基づき、各部門の具体的な年度目標及び予算を設定し、それに基づく月次、四半期、半期、年間業績の管理を行うものとしております。

e. 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ会社における業務の適正を確保するため、グループ会社全てに通用する行動指針として、グループ・コンプライアンス・ポリシーを定め、これを基礎として、グループ各社は定められた諸規定により運営しております。

経営管理については、「関係会社管理規程」により、当社への決裁・報告制度による子会社経営の管理を行うものとし、定期的に内部監査室がモニタリングを行うものとしております。

取締役は、グループ全社において、法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事項を発見した場合には、監査役に報告するものとしております。

子会社が当社からの経営管理、経営指導内容が法令に違反し、その他、コンプライアンス上問題があると認めた場合には監査役に報告するものとしております。

監査役は意見を述べるとともに、改善策の策定を求めることができるものとしております。

当社は、「リスク管理規程」に基づき、子会社の経営上の重要事項、業務執行状況及び財務状況等について審議できるよう、子会社からの定期的な報告を義務付けております。

内部監査室は、定期的に子会社の監査を実施し、当社の社長及び監査役等に報告するものとしております。

f. 監査役を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項及び監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役は、内部監査室所属の社員に事務局として監査業務に必要な事項を命令することができる体制をとっております。

内部監査室は監査役会との協議により監査役の要望した事項の内部監査を実施し、その結果を監査役会に報告しております。

g. 当社及び子会社の取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社及び子会社の取締役または使用人は、監査役会に対して、法定の事項に加え、全社的に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況を速やかに報告しております。

報告の方法（報告者、報告受領者、報告時期等）については、取締役と監査役会との協議により決定しております。

監査役会は、社長、監査法人及び内部監査室とそれぞれ定期的に意見交換会を開催しております。

h. 上記g.の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、監査役へ報告をした者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの取締役または使用人に周知徹底させております。

i. 当社の監査役を執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役がその職務の執行について、当社に対し費用の前払い等を請求したときは、その費用等が職務の執行について必要でないことと認められた場合を除き、当該費用または債務を処理することとしております。

当社は、監査役が職務執行に必要であると判断した場合、弁護士、公認会計士等の専門家に意見・アドバイスを依頼する等の必要な監査費用を認めることとしております。

j. 反社会的勢力排除に向けた体制

当社は、「コンプライアンス・ポリシー（企業行動憲章）」において、反社会的勢力に対し断固とした姿勢で臨むことを掲げ、関係排除に取り組むものとしております。

また、顧問弁護士や警察等の外部機関と連携し社内体制の整備を行うと同時に、全役職員への啓蒙活動にも取り組むものとしております。

k. 財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法及び関連する法令を遵守し、整備・評価・是正を行うことにより適正な内部統制システムを構築することとしております。

(イ) リスク管理体制の整備の状況

企業の社会的責任を達成するため、2005年1月よりCSR推進委員会を設置し、当社グループの取締役・使用人の啓蒙活動に努めております。

2005年4月からの個人情報保護法の施行に伴い、「プライバシーポリシー」の制定、「個人情報保護規程」等の社内規程の整備及び全役職員教育を行い、個人情報の管理体制の強化を図っております。

2006年6月よりコンプライアンス委員会を設置し、研修等を通じてコンプライアンスの知識を高めるとともに、取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制を整備しております。

⑤責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役及び各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

⑥取締役の定数

当社の取締役は、6名以内とする旨を定款に定めております。

⑦取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び、累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑧取締役会において決議することができる株主総会決議事項

(ア) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己株式の取得をすることができる旨を定款に定めております。これは自己株式の取得を取締役会の権限とすることにより、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

(イ) 中間配当

当社は、取締役会の決議によって、毎年2月末日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項の規定による剰余金の配当（中間配当）を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑨株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、定款に別段の定めがある場合を除き、当該株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑩会社の財務及び事業方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

(a) 基本方針の内容

上場会社である当社の株式は、株主、投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社の株式に対する大規模買付提案またはこれに類似する行為があった場合においても、一概に否定するものではなく、最終的には株主の皆様の自由な意思により判断されるべきであると考えます。

一方で、わが国の資本市場においては、対象となる企業の経営陣の賛同を得ずに、一方的に大規模買付提案またはこれに類似する行為を強行する動きが想定されます。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の企業理念、企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならないと考えております。従いまして、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案またはこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

(b) 不適切な支配の防止のための取組み

企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な確保・向上を目指す当社の経営にあたっては、幅広いノウハウと豊富な経験、並びに顧客、従業員及び取引先等のステークホルダーとの間に築かれた関係等への十分な理解が不可欠です。これら当社の事業特性に関する十分な理解がなくては、株主の皆様が将来実現することのできる株主価値を適切に判断することはできません。突然大規模買付行為がなされたときに、大規模買付者の提示する提案内容が適正か否かを株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、大規模買付者及び当社取締役会の双方から必要かつ十分な情報が提供されることが不可欠であり、当社株式をそのまま継続保有することを考える株主の皆様にとっても、大規模買付者が当社の経営に参画したときの経営方針や事業計画の内容等は、その継続保有を検討するうえで重要な判断材料であります。同様に、当社取締役会が当該大規模買付行為についてどのような意見を有しているのかも、株主の皆様にとっては重要な判断材料となると考えます。以上のことから、当社取締役会は大規模買付行為が一定の合理的なルールに従って行われることが、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資すると考え、大規模買付行為がなされた場合における情報提供等に関する一定のルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を設定するとともに、前述の会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって大規模買付行為がなされた場合には、それらの者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして対抗措置を含めた買収防衛策（以下「本プラン」といいます。）を継続しております。

<当社株式の大規模買付行為への対応策（買収防衛策）の概要>

本プランは、①特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、②結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為を対象とします。

本プランにおける大規模買付ルールとは、事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、必要情報の提供完了後、対価を現金のみとする公開買付による当社全株式の買付けの場合は最長60日間、またはその他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価・検討等の取締役会評価期間として設定し、取締役会評価期間が経過した後に大規模買付行為を開始する、というものです。

本プランにおいては、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。ただし、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合、大規模買付ルールを遵守しても当該大規模買付行為が会社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、必要かつ相当な範囲で新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律及び当社定款上検討可能な対抗措置をとることがあります。このように対抗措置をとる場合、その判断の客観性及び合理性を担保するために、取締役会是对抗措置の発動に先立ち、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外取締役、社外監査役並びに社外有識者から選任された委員で構成する独立委員会に対して対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は対抗措置の発動の是非について、取締役会評価期間内に勧告を行うものとします。当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、必要に応じて独立委員会の勧告または取締役会の判断により、株主の皆様の意思を確認することが適切と判断した場合には、本プランによる対抗措置を発動することを十分に検討するための株主検討期間（最長60日間）を設定し、当該株主検討期間中に当社株主総会を開催することといたします。

本プランは、2018年11月22日開催の当社第72回定時株主総会において株主の皆様のご承認を賜り継続し、その有効期限は同日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会（2021年11月に開催予定の定時株主総会終結）の時までとなっております。

本プランの詳細につきましては当社インターネットホームページ（<http://www.yamatointr.co.jp/>）をご参照ください。

(c) 不適切な支配の防止のための取組みについての取締役会の判断

本プランは、会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みであり、以下の点から、当社役員の地位維持を目的としたものではなく当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうものではないと考えております。

(ア) 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が2005年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を充足しています。

また、経済産業省に設置された企業価値研究会が2008年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」及び株式会社東京証券取引所が2015年6月1日に公表した「コーポレートガバナンス・コード」の「原則1-5いわゆる買収防衛策」の内容も踏まえたものとなっております。

(イ) 株主共同の利益の確保・向上の目的をもって継続されていること

本プランは、当社株式に対する大規模買付行為等がなされた際に、当該大規模買付行為等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために大規模買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって継続したものです。

(ウ) 合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みが確保されています。

(エ) 独立性の高い社外者（社外取締役、社外監査役並びに社外有識者）の判断を重視

本プランにおける対抗措置の発動等に際しては、独立している社外者のみで構成される独立委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するよう、本プランの透明な運用を担保するための手続きも確保されています。

(オ) 株主意思を反映するものであること

本プランは、定時株主総会における株主の皆様のご承認を条件に、継続されたものであり、その継続について株主の皆様のご意向が反映されております。また、本プラン継続後、有効期間中であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されます。

(カ) デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される当社取締役会により廃止することができるものとされており、当社の株式を大量に買付けた者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される当社取締役会により、本プランを廃止することが可能であり、デッドハンド型買収防衛策ではありません。また、当社の取締役任期は1年であり、期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策でもありません。

(2) 【役員の状況】

①役員一覧

男性 9名 女性 1名 (役員のうち女性の比率10.0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役社長 (代表取締役)	盤若 智基	1972年1月13日生	1995年4月 伊藤忠商事㈱入社 1998年9月 セネシオ㈱代表取締役就任 1999年4月 伊藤忠商事㈱退社 1999年5月 当社入社 2000年12月 営業本部付ゼネラルマネージャー (営業企画担当) 2001年2月 取締役就任 営業本部付ゼネラル マネージャー (営業企画担当) 2001年12月 生産管理部ゼネラルマネージャー 2002年2月 生産管理部ゼネラルマネージャー 兼システム部担当 2002年12月 生産管理部長兼システム部担当 2003年1月 常務取締役就任 営業副本部長兼 生産管理部担当兼システム部担当 2003年12月 第二営業本部長兼生産管理部担当 兼システム部担当 2004年12月 代表取締役社長就任 (現任) 2006年2月 セネシオ㈱取締役就任 (現任)	(注) 3	5,967
取締役 常務執行役員 生産管理部長	奥中 信一	1961年11月21日生	1984年3月 当社入社 2004年12月 エーグル事業部長 2007年12月 クロコダイル事業部長 2008年2月 取締役就任 (現任) 営業副本部長 兼クロコダイル事業部長 2009年12月 営業本部長兼エーグル事業部長 2011年3月 営業本部長 2011年11月 営業本部長兼生産管理部担当 2012年11月 常務執行役員 (現任) 2013年9月 小売事業本部長兼マーケティング コミュニケーション部長兼生産管 理部担当 2014年9月 事業統括本部長兼生産管理部担当 2014年11月 上海雅瑪都時装有限公司董事長就 任 2018年6月 社長付生産管理部担当 2018年11月 生産管理部担当 2019年9月 生産管理部長 (現任) 他にヤマト ファッションサービス㈱取締役を現 任	(注) 3	355
取締役 常務執行役員 事業統括本部長兼 クロコダイル事業部門長兼 ブランドディレクター	梅川 実	1970年9月14日生	1993年3月 当社入社 2011年9月 クロコダイルレディス事業部長 2012年9月 クロコダイル商品企画部長 2014年9月 執行役員クロコダイル部長 2016年8月 執行役員クロコダイル事業部門長 2017年9月 常務執行役員 (現任) 事業統括副 本部長兼クロコダイル事業部門長 2018年6月 事業統括本部長兼クロコダイル事 業部門長 2018年11月 取締役就任 (現任) クロコダイル 事業部門商品企画部長 2019年9月 事業統括本部長兼クロコダイル事 業部門長 2020年9月 事業統括本部長兼クロコダイル事 業部門長兼ブランドディレクター (現任)	(注) 3	64

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役 常務執行役員 経理部長兼 人財開発室担当兼 総務人事部担当	中野 雅敏	1959年2月16日生	1982年4月 当社入社 2008年2月 総務部長 2014年9月 経理副部長 2016年8月 執行役員経理部長 2016年11月 執行役員経理部長兼総務部担当 2019年9月 執行役員経理部長兼総務人事部担当 2019年11月 常務執行役員（現任）経理部長兼総務人事部担当 2020年9月 常務執行役員経理部長兼人財開発室担当兼総務人事部担当（現任） 2020年11月 取締役就任（現任） 他にヤマト ファッションサービス㈱取締役を現任	(注)3	135
取締役	岩田 宣子	1956年7月15日生	1979年4月 アメリカ銀行東京支店入行 1989年5月 同行退行 1989年6月 ビザ・インターナショナル入社 1991年10月 同社退社 1992年1月 デュー・ロジャースン・ジャパン入社 1994年10月 同社退社 1994年11月 テクニメトリックス（現トムソン・フィナンシャル）入社 2001年1月 同社退社 2001年2月 ジェイ・ユース・アイアール㈱入社 2001年5月 同社代表取締役（現任） 2014年11月 当社取締役就任（現任）	(注)3	—
取締役	北村 禎宏	1961年3月19日生	1984年4月 株式会社ワールド入社 1999年4月 同社総合企画部部长 2003年12月 同社マーケティング統括部CRM部部长 2005年4月 同社退社 2005年6月 神戸ビジネスコンサルティング有限公司設立 同社代表取締役（現任） 2020年11月 当社取締役就任（現任）	(注)3	—

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
常勤監査役	船原 淳一	1957年5月9日生	1981年4月 当社入社 2002年12月 人事部長 2008年2月 取締役就任 人事部長 2010年2月 人事部長兼システム部担当 2012年11月 常務執行役員人事部長兼システム部担当 2014年3月 システム部長兼人事担当 2014年11月 取締役就任 2019年9月 システム部長兼人財開発室担当 2020年9月 社長付 2020年11月 常勤監査役就任(現任) 他にヤマト ファッションサービス㈱監査役を現任	(注)6	209
常勤監査役	市原 英之	1961年4月19日生	1985年3月 当社入社 2012年9月 内部監査室長 2016年8月 総務部長 2019年9月 総務人事部付 2019年11月 常勤監査役就任(現任) 他にヤマト ファッションサービス㈱監査役を現任	(注)5	56
監査役	和田 正宏	1956年1月26日生	1993年5月 税理士登録 1997年11月 和田正宏税理士事務所設立 2005年9月 税理士法人グローバルマネジメント設立 代表社員(現任) 2014年11月 当社監査役就任(現任)	(注)4	—
監査役	細川 良造	1978年5月22日生	2007年12月 弁護士登録 2008年1月 久保井総合法律事務所入所 2019年3月 同事務所退所 2019年4月 細川総合法律事務所入所(現在) 2020年11月 当社監査役就任(現任)	(注)6	—
計					6,786

- (注) 1. 取締役岩田宜子及び北村禎宏は、社外取締役であります。
2. 監査役和田正宏及び細川良造は、社外監査役であります。
3. 2020年11月20日開催の定時株主総会の終結の時から1年以内の決算期に関する定時株主総会終結の時まで。
4. 2018年11月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年以内の決算期に関する定時株主総会終結の時まで。
5. 2019年11月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年以内の決算期に関する定時株主総会終結の時まで。
6. 2020年11月20日開催の定時株主総会の終結の時から4年以内の決算期に関する定時株主総会終結の時まで。

7. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (百株)
片桐 正雄	1950年1月29日生	1974年4月 日本生命保険相互会社 入社 1995年3月 同社融資業務部財務業務グループ 担当課長 1999年3月 同社東日本財務部次長 2001年3月 同社北海道総合法人部次長 2002年3月 同社財務検査室長 2005年6月 丸三証券(株) 社外監査役 2007年3月 日本生命保険相互会社 退社 2012年6月 丸三証券(株) 社外監査役退任 2018年9月 薬樹(株)監査役(現任)	-

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

8. 経営環境の変化に対応するため、業務執行の役割と責任を明確化し、意思決定の迅速化、業務執行の効率化を目的として、執行役員制度を導入しております。なお、執行役員(取締役を兼務している執行役員については除いております。)は以下の3名で構成されております。

職名	氏名
執行役員 営業推進室長兼システム部担当	辻 紀明
執行役員 I R経営企画室長	川島 祐二
執行役員 クロコダイル事業部門 副部門長兼クロコダイル事業部門 事業戦略室長	増田 道則

②社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

当社は、業務執行に対する監督機能の強化と経営の透明性をさらに高めるため、社外取締役制度を導入しております。

また、当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針について明確に定めたものではありませんが、株式会社東京証券取引所の定める独立役員に関する基準等を参考に選任しております。

社外取締役・岩田宜子氏は、ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社の代表取締役であり、長らくI R・資本市場関係に関与し、その知見を備えるばかりではなく、豊富な国際経験及び経営者としての経験と見識をもって、当社の企業価値向上に貢献していただけると判断し、選任しております。なお、同氏及び同社と当社との間に開示すべき特別な利害関係はありません。

社外取締役・北村禎宏氏は、神戸ビジネスコンサルティング有限会社の代表取締役であり、コンサルティング業務における豊富な経験と幅広い知見を有しているばかりでなく、経営に携わった経験と見識をもって、当社の経営体制の更なる強化と企業価値の向上に貢献していただけると判断し、選任しております。なお、同氏及び同社と当社との間に開示すべき特別な利害関係はありません。

また、岩田宜子氏及び北村禎宏氏は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、独立役員として同取引所に届出ております。

社外監査役・和田正宏氏は、税理士法人グローバルマネジメントの代表社員であり、税理士の資格を有しており、税務及び会計に関する相当程度の経験、見識を有し、当社監査役の職務を適切に遂行していただいております。なお、同氏及び同社と当社との間に開示すべき特別な利害関係はありません。

社外監査役・細川良造氏は、細川総合法律事務所の弁護士であり、企業法務に精通し、会社法、労務法、不動産に係る問題やM&Aにおける法務デューデリジェンス、企業不祥事等への対応に携わってきた豊富な経験と見識をもって、外部の視点から中立、公正な立場で監査いただいております。なお、同氏及び同社と当社との間に開示すべき特別な利害関係はありません。

また、和田正宏氏及び細川良造氏は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、独立役員として同取引所に届出ております。

社外監査役は、会計監査人と意見交換を行い相互連携を図るとともに、常勤監査役が内部監査室と意見交換を行った内容について常勤監査役より報告を受けております。

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。

③社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は経験から基づいた見地から、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するために必要な発言を適宜行い業務執行を監督し、社外監査役は専門的な見地から、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための発言並びに監督を行っております。また、社外監査役は中立の立場から客観的かつ積極的に監査に必要な情報を入手し、得られた情報を他の監査役と共有して監査環境の強化に努めております。

社外取締役及び社外監査役は、内部監査室及び会計監査人と緊密な連携を保ち、監査の実施過程について適宜報告を求めるとともに、監督または監査効率の向上を図っております。これらの監督または監査により、不備・欠陥が確認された場合は、内部統制部門である内部監査室がその是正・監督を実施し、内部統制を評価しております。

(3) 【監査の状況】

①監査役監査の状況

当社における監査役監査の体制は、常勤監査役2名と独立性を有した社外監査役2名の計4名で構成され、監査役は監査役会が定めた監査方針に基づき、内部監査室との連携のもと重要決裁書類等を閲覧するなどの方法により監査を実施するとともに、取締役会のほか重要な会議にも出席し、取締役の職務執行の監査を行っております。

なお、社外監査役 和田正宏氏は、税理士の資格を有しており、税務及び会計に関する相当程度の経験、見識を有しております。

監査役会は毎月1回以上開催するほか、必要のある場合は臨時監査役会を開催し、監査の方針・計画等の決定、監査結果の協議等を行っております。当事業年度において監査役会は18回開催され、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数（出席率）
常勤監査役 樋口 敏昭	18回	18回（100%）
常勤監査役 市原 英之	18回	18回（100%）
社外監査役 田口 芳樹	18回	18回（100%）
社外監査役 和田 正宏	18回	18回（100%）

監査役会における主な検討事項は、監査方針及び重点監査項目を含む監査計画、取締役等の職務執行の妥当性、会計監査人監査の相当性及び報酬の適正性、事業報告及び付属明細書の適法性、常勤監査役による月次活動報告に基づく情報共有等であります。

常勤監査役の活動として、取締役会等の重要な会議への出席、取締役の職務執行についての監査、部門長への面談の実施、稟議書及び諸会議議事録や各種契約書の閲覧等を通じて、会社の状況を把握し経営の健全性を監査するとともに、社外監査役への情報共有を行うことで監査機能の充実を図っております。また、監査役と会計監査人は、定期的な情報・意見交換を行うとともに、監査結果の報告を受ける等緊密な連携をとり、監査内容の充実と監査業務の徹底に努めております。

②内部監査の状況

当社の業務は、権限と責任を定める「職務権限規程」に基づいて執行されており、その業務遂行状況につきましては、社長直轄の内部監査室（現在4名の人員で構成）が「内部監査規程」に基づき監査を行っております。内部監査は、すべての部門、直営店、子会社等について会計監査、業務監査及び制度監査を実施するとともに、監査後のフォローアップを周知徹底しており、監査役とも連携して業務の改善と指導を行っております。また、監査役と内部監査室は、月1回会合を行っており、情報・意見交換を行うとともに、監査実施状況の報告を受ける等緊密な連携をとっております。さらに会計監査人とも監査結果の報告会等定期的に打合せを行っており、会社の内部統制に対して十分な監視機能を有しております。

③会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

b. 継続監査期間

33年間

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 千崎 育利

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 田中 賢治

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名、会計士試験合格者等6名、その他3名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、専門性、独立性及び組織体制や監査実績があることから総合的に判断し、現会計監査人を選定しております。監査役会は、会計監査人が会社法及び公認会計士法等に違反もしくは抵触すると判断した場合、監査役全員の同意により会計監査人を解任するほか、会計監査人が職務を遂行できることが困難と認められる場

合または監査の適正性をより高めるために会計監査人の変更が妥当であると判断される場合には、監査役会の決定により、会計監査人の解任または不再任に関する議案を株主総会に提案いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役及び監査役会は、財務・経理部門及び内部監査部門並びに会計監査人から、会計監査人の独立性・監査体制・監査の実施状況や品質等に関する情報を収集したうえで、「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」（日本監査役協会）に準拠し、評価を実施しております。

有限責任監査法人トーマツにおいて、会計監査の適格性・独立性を害する事由等の発生はなく、適切な監査の遂行が可能であると評価しております。

④監査公認会計士等に対する報酬の内容

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	27,000	—	27,000	3,000
連結子会社	—	—	—	—
計	27,000	—	27,000	3,000

当社における非監査業務の内容は、「収益認識に関する会計基準」の適用による会計方針の検討に関する助言・指導業務であります。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬（a. を除く）

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査法人より提示された監査に要する業務時間等を十分に考慮し、当社の規模・特性・監査日数等を勘案した上、監査役会の同意を得て監査報酬を定めております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、取締役、社内関係部署及び会計監査人より必要な資料の入手、報告を受けたうえで、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行い、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めており、当社グループの経営方針に基づき、役員が中長期的に業績を発展させ、企業価値の最大化に資するように考慮しております。これに従い、株主総会で承認された報酬限度額内で経済環境、業績、職責等を総合的に勘案し、取締役の報酬は独立役員を含む取締役会の協議により決定し、監査役の報酬は監査役会における監査役との協議により決定しております。

なお、2012年11月22日開催の第66回定時株主総会において、取締役の報酬限度額は年額3億円以内、2007年2月23日開催の第60回定時株主総会において、監査役の報酬限度額は、年額5千万円以内と決議しております。

当社の役員報酬は固定報酬及び業績連動報酬によって構成しており、業績連動報酬を算定する指標については、会社の持続的な成長を実現するため事業全体の収益力を重視することから、連結経常利益を評価指標としております。当事業年度における業績連動報酬に係る指標の当初の目標は連結経常利益670百万円でありましたが、2020年3月19日に公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、新型コロナウイルス感染症の見通しが不透明であり、業績に与える影響等の予測が困難であることから、業績予想を一旦取り下げ、未定としておりました。実績は連結経常損失760百万円でありました。

また、当社は2019年9月6日開催の取締役会において、取締役会の任意の諮問機関として指名・報酬委員会を設置することを決議いたしました。同委員会は、独立役員（独立社外取締役及び独立社外監査役）を過半数とする委員3名以上で構成され、取締役会からの諮問に基づき、取締役の報酬等に関する事項等を審議し、取締役会に対して答申を行います。取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針については、同委員会からの答申を十分に尊重したうえで、取締役会で決議し、公正な審議による妥当性及び透明性の確保を図っております。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	92,557	84,297	8,260	—	4
監査役 (社外監査役を除く)	20,737	19,689	1,048	—	3
社外役員	20,857	20,857	—	—	4

(注) 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与及び賞与が含まれておりません。

③ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

④ 退職慰労金の支給について

退職慰労金は支給しておりません。ただし、2007年2月23日の第60回定時株主総会決議に基づく打ち切り支給額は、当該取締役の退任時に支給する決議をしております。

(5) 【株式の保有状況】

①投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式価値の変動又は株式配当による利益享受を目的に保有している株式を純投資目的である投資株式として区分し、主に取引関係の維持・強化を目的に保有している株式を純投資目的以外の目的である投資株式として区分しております。

②保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、持続的な成長と企業価値向上のため、取引先との中長期的な取引関係の継続・強化の観点から、政策保有株式として上場株式を保有しています。

この政策保有株式については、そのリターンとリスク等を踏まえた中長期的な経済的合理性や将来の見通しを総合的に勘案し、保有の適否を取締役会において検証しています。その結果、保有の意義が認められないと判断された銘柄については縮減を図っております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (千円)
非上場株式	3	5,400
非上場株式以外の株式	21	1,439,568

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 (千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	4	4,710	取引先持株会による定期買付

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 (千円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	1	171,957

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数 (株)	株式数 (株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
イオン(株)	127,792	127,185	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・ 強化及び相互の取り組みによる持続的な 企業価値向上のため (増加理由) 主要な取引先であり、取引 関係の維持・強化のための取引先持株会 による定期買付	有
	335,967	239,616		
(株)ファミリーマート	—	74,764	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・ 強化及び相互の取り組みによる持続的な 企業価値向上のため (減少理由) TOBの募集に応募のため	無
	—	183,171		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数 (株)	株式数 (株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	299,060	299,060	(保有目的) 事業を継続的に発展させるための財務業務の円滑な推進及び取引関係の維持・強化のため	無 (注3)
	132,334	152,640		
伊藤忠商事(株)	68,326	68,326	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	有
	186,085	144,748		
福山通運(株)	38,000	38,000	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	有
	198,740	139,840		
丸三証券(株)	250,200	250,200	(保有目的) 事業を継続的に発展させるための財務業務の円滑な推進及び金融取引における関係の維持・強化のため	有
	105,334	120,596		
モリト(株)	112,000	112,000	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	有
	65,408	85,456		
三井物産(株)	50,000	50,000	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	有
	95,700	83,150		
ダイダン(株)	36,000	36,000	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	有
	96,840	75,996		
(株)平和堂	30,481	30,153	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	66,693	59,312	(増加理由) 主要な取引先であり、取引関係の維持・強化のための取引先持株会による定期買付	
倉敷紡績(株)	28,800	28,800	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	有
	57,772	55,699		
(株)近鉄百貨店	8,800	8,800	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	25,088	26,884		
イオン九州(株)	13,594	12,950	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	27,515	24,800	(増加理由) 主要な取引先であり、取引関係の維持・強化のための取引先持株会による定期買付	
(株)セブン&アイ・ホールディングス	4,471	4,107	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	15,350	15,431	(増加理由) 主要な取引先であり、取引関係の維持・強化のための取引先持株会による定期買付	

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数 (株)	株式数 (株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
㈱三越伊勢丹ホールディングス	11,500	11,500	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	6,716	9,257		
エイチ・ツー・オーリテイリング㈱	5,934	5,934	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	4,397	6,616		
イオンモール㈱	3,696	3,696	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	5,185	6,176		
㈱りそなホールディングス	12,600	12,600	(保有目的) 事業を継続的に発展させるための財務業務の円滑な推進及び取引関係の維持・強化のため	無 (注4)
	4,914	5,254		
㈱オークワ	3,864	3,864	(保有目的) 安定的な取引関係の維持・強化及び相互の取り組みによる持続的な企業価値向上のため	無
	5,656	4,385		
㈱岡三証券グループ	11,000	11,000	(保有目的) 事業を継続的に発展させるための財務業務の円滑な推進及び金融取引における関係の維持・強化のため	無
	3,542	3,850		
㈱オンワードホールディングス	1,000	1,000	(保有目的) 事業上の関係の維持・強化のため	無
	273	502		
㈱T S Iホールディングス	165	165	(保有目的) 事業上の関係の維持・強化のため	無
	53	87		

- (注) 1. 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下の銘柄を含め、開示すべき全ての銘柄について記載しております。
2. 定量的な保有効果は記載が困難であるため、記載しておりません。なお、保有の適否に関する検証については、「a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に記載しております。
3. ㈱三菱UFJフィナンシャル・グループは当社株式を保有していませんが、同子会社である㈱三菱UFJ銀行は当社株式を保有しています。
4. ㈱りそなホールディングスは、当社株式を保有していませんが、同子会社である㈱りそな銀行は当社株式を保有しています。

みなし保有株式

該当事項はありません。

③保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (千円)
非上場株式	1	90,083	1	90,083
非上場株式以外の株式	—	—	—	—

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額 (千円)	売却損益の 合計額 (千円)	評価損益の 合計額 (千円)
非上場株式	2,244	—	(注)
非上場株式以外の株式	—	—	—

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」は記載しておりません。

④当事業年度中に投資目的の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの該当事項はありません。

⑤当事業年度中に投資目的の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1976年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当連結会計年度（2019年9月1日から2020年8月31日まで）の連結財務諸表及び第74期事業年度（2019年9月1日から2020年8月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、情報収集に努めるとともに、監査法人等の主催するセミナーに適宜参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,768,636	4,334,347
受取手形及び売掛金	※ 1,603,984	1,249,899
有価証券	2,756,956	999,998
商品及び製品	2,059,932	2,292,237
仕掛品	—	92
その他	158,081	220,571
貸倒引当金	△2,041	△1,804
流動資産合計	11,345,550	9,095,343
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,856,338	7,834,173
減価償却累計額	△6,398,615	△6,522,347
建物及び構築物（純額）	1,457,723	1,311,825
機械装置及び運搬具	3,971	178,882
減価償却累計額	△3,339	△30,516
機械装置及び運搬具（純額）	631	148,365
土地	5,179,068	5,179,068
リース資産	106,131	123,545
減価償却累計額	△90,250	△97,127
リース資産（純額）	15,881	26,418
建設仮勘定	21,936	—
その他	488,262	492,149
減価償却累計額	△390,670	△409,580
その他（純額）	97,591	82,569
有形固定資産合計	6,772,832	6,748,248
無形固定資産	111,354	25,626
投資その他の資産		
投資有価証券	4,711,203	4,680,119
差入保証金	114,964	66,829
退職給付に係る資産	170,491	201,864
繰延税金資産	79,924	11,952
その他	121,457	115,377
貸倒引当金	△32,849	△27,671
投資その他の資産合計	5,165,192	5,048,472
固定資産合計	12,049,379	11,822,346
資産合計	23,394,930	20,917,690

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	755,231	479,729
電子記録債務	2,927,244	2,586,612
1年内返済予定の長期借入金	229,372	167,372
リース債務	4,587	8,831
未払法人税等	155,383	1,657
賞与引当金	89,342	78,693
返品調整引当金	13,000	9,000
ポイント引当金	4,511	5,597
店舗閉鎖損失引当金	—	21,251
その他	847,236	651,600
流動負債合計	5,025,909	4,010,345
固定負債		
長期借入金	735,585	618,213
リース債務	11,244	21,703
資産除去債務	47,534	33,669
繰延税金負債	—	209,000
その他	224,913	225,196
固定負債合計	1,019,277	1,107,783
負債合計	6,045,186	5,118,128
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,917,652	4,917,652
資本剰余金	4,988,692	4,988,692
利益剰余金	7,501,255	5,856,433
自己株式	△363,450	△363,733
株主資本合計	17,044,149	15,399,044
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	262,337	380,498
繰延ヘッジ損益	△11,396	△1,616
退職給付に係る調整累計額	54,653	21,634
その他の包括利益累計額合計	305,594	400,516
純資産合計	17,349,743	15,799,561
負債純資産合計	23,394,930	20,917,690

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
売上高	16,818,297	14,252,386
売上原価	※1 9,179,448	※1 8,250,738
売上総利益	7,638,848	6,001,647
返品調整引当金戻入額	15,000	13,000
返品調整引当金繰入額	13,000	9,000
差引売上総利益	7,640,848	6,005,647
販売費及び一般管理費	※2 7,058,157	※2 6,929,572
営業利益又は営業損失(△)	582,690	△923,925
営業外収益		
受取利息	28,024	22,379
受取配当金	43,746	43,968
雇用調整助成金	—	86,083
その他	32,855	28,611
営業外収益合計	104,626	181,043
営業外費用		
支払利息	7,322	6,583
貸倒引当金繰入額	4,500	—
その他	5,952	10,879
営業外費用合計	17,774	17,463
経常利益又は経常損失(△)	669,543	△760,345
特別利益		
関係会社出資金売却益	※3 462,873	—
投資有価証券売却益	—	60,482
特別利益合計	462,873	60,482
特別損失		
固定資産除却損	※4 19,812	※4 4,982
減損損失	※5 404,940	※5 175,144
過年度消費税等	※6 18,755	—
投資有価証券評価損	—	95,367
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	21,251
特別退職金	—	※7 31,670
特別損失合計	443,507	328,415
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	688,908	△1,028,279
法人税、住民税及び事業税	186,601	36,122
法人税等調整額	△27,198	231,103
法人税等合計	159,403	267,225
当期純利益又は当期純損失(△)	529,505	△1,295,504
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	529,505	△1,295,504

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
当期純利益又は当期純損失(△)	529,505	△1,295,504
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△196,110	118,161
繰延ヘッジ損益	△7,599	9,780
為替換算調整勘定	△189,703	—
退職給付に係る調整額	3,519	△33,018
その他の包括利益合計	※ △389,894	※ 94,922
包括利益	139,610	△1,200,582
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	139,610	△1,200,582
非支配株主に係る包括利益	—	—

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,917,652	4,988,692	7,362,173	△363,237	16,905,282
当期変動額					
剰余金の配当			△390,424		△390,424
親会社株主に帰属する 当期純利益			529,505		529,505
自己株式の取得				△213	△213
連結範囲の変動に伴う 為替換算調整勘定の増減					
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	139,081	△213	138,867
当期末残高	4,917,652	4,988,692	7,501,255	△363,450	17,044,149

	その他の包括利益累計額				
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整 累計額	その他の包括利益 累計額合計
当期首残高	458,447	△3,796	189,703	51,134	695,488
当期変動額					
剰余金の配当					
親会社株主に帰属する 当期純利益					
自己株式の取得					
連結範囲の変動に伴う 為替換算調整勘定の増減			△193,409		△193,409
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△196,110	△7,599	3,705	3,519	△196,485
当期変動額合計	△196,110	△7,599	△189,703	3,519	△389,894
当期末残高	262,337	△11,396	—	54,653	305,594

	純資産合計
当期首残高	17,600,770
当期変動額	
剰余金の配当	△390,424
親会社株主に帰属する 当期純利益	529,505
自己株式の取得	△213
連結範囲の変動に伴う 為替換算調整勘定の増減	△193,409
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△196,485
当期変動額合計	△251,027
当期末残高	17,349,743

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,917,652	4,988,692	7,501,255	△363,450	17,044,149
当期変動額					
剰余金の配当			△349,317		△349,317
親会社株主に帰属する 当期純損失（△）			△1,295,504		△1,295,504
自己株式の取得				△282	△282
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	△1,644,821	△282	△1,645,104
当期末残高	4,917,652	4,988,692	5,856,433	△363,733	15,399,044

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整 累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	262,337	△11,396	54,653	305,594	17,349,743
当期変動額					
剰余金の配当					△349,317
親会社株主に帰属する 当期純損失（△）					△1,295,504
自己株式の取得					△282
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	118,161	9,780	△33,018	94,922	94,922
当期変動額合計	118,161	9,780	△33,018	94,922	△1,550,181
当期末残高	380,498	△1,616	21,634	400,516	15,799,561

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失 (△)	688,908	△1,028,279
減価償却費	213,663	222,853
減損損失	404,940	175,144
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△2,000	△4,000
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	423	1,085
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4,369	△5,414
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△87,755	△31,373
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2,213	△10,649
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	—	21,251
受取利息及び受取配当金	△71,771	△66,347
支払利息	7,322	6,583
為替差損益 (△は益)	748	860
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△60,482
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	95,367
関係会社出資金売却益	※2 △462,873	—
固定資産除却損	19,812	4,982
売上債権の増減額 (△は増加)	△9,659	354,084
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△68,315	△232,396
仕入債務の増減額 (△は減少)	△32,913	△616,133
その他の資産の増減額 (△は増加)	62,979	6,175
その他の負債の増減額 (△は減少)	163,178	△133,298
その他	5,282	△43,054
小計	838,553	△1,343,041
利息及び配当金の受取額	73,134	67,227
利息の支払額	△7,131	△6,257
法人税等の支払額	△169,669	△203,163
営業活動によるキャッシュ・フロー	734,886	△1,485,234
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	300,000	—
有形固定資産の取得による支出	△146,223	△325,413
有形固定資産の除却による支出	△8,495	△4,241
無形固定資産の取得による支出	△3,623	△10,722
投資有価証券の取得による支出	△204,633	△105,101
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,783	273,758
差入保証金の差入による支出	△29,885	△275
差入保証金の回収による収入	248	3,236
連結の範囲の変更を伴う 子会社出資金の売却による収入	※2 328,410	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	238,581	△168,759
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△277,376	△229,372
自己株式の取得による支出	△213	△282
配当金の支払額	△390,424	△349,317
その他	△6,797	△7,421
財務活動によるキャッシュ・フロー	△374,811	△536,393
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,326	△860
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	600,983	△2,191,246
現金及び現金同等物の期首残高	6,924,609	7,525,593
現金及び現金同等物の期末残高	※1 7,525,593	※1 5,334,346

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称

ヤマト ファッションサービス株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. デリバティブ

時価法

ハ. たな卸資産

主として総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び連結子会社は定率法を採用しております。ただし、1998年12月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～47年

ロ. 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ハ. リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

ニ. 長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

ハ. 返品調整引当金

商品及び製品の返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案し、将来の返品に伴う損失予想額を計上しております。

ニ. ポイント引当金

ポイント制度に基づき顧客に付与したポイントの利用に備えるため、当連結会計年度末における将来利用見込額を計上しております。

ホ. 店舗閉鎖損失引当金

店舗退店に伴い発生する損失に備え、解約違約金等の退店関連損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、発生年度において一括償却しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

ハ. 未認識数理計算上の差異の会計処理方法

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合には特例処理によっております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

a. ヘッジ手段……為替予約

ヘッジ対象……外貨建債権債務及び外貨建予定取引

b. ヘッジ手段……金利スワップ取引

ヘッジ対象……借入金

ハ. ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規程等を定めた社内管理規程に基づき、為替相場変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

外貨建予定取引に係る為替予約については、予定取引の主要な取引条件の予測可能性及びその実行可能性を検討し、有効性の評価を行っております。

なお、振当処理によっている外貨建債権債務に係る為替予約は振当処理の要件を満たしていることを、特例処理によっている金利スワップ取引は特例処理の要件を満たしていることを確認しており、その判定をもって有効性の評価に代えております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年8月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、ます。

(時価の算定に関する会計基準等)

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) が、公正価値測定についてほぼ同じ内容の詳細なガイダンス(国際財務報告基準(IFRS)においてはIFRS第13号「公正価値測定」、米国会計基準においてはAccounting Standards CodificationのTopic 820「公正価値測定」)を定めている状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して、日本基準を国際的な会計基準との整合性を図る取組みが行われ、「時価の算定に関する会計基準」等が公表されたものです。

企業会計基準委員会の時価の算定に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、統一的な算定方法を用いることにより、国内外の企業間における財務諸表の比較可能性を向上させる観点から、IFRS第13号の定めを基本的にすべて取り入れることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわせない範囲で、個別項目に対するその他の取扱いを定めることとされております。

(2) 適用予定日

2022年8月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、ます。

(会計上の見積りの開示に関する会計基準)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)が2003年に公表した国際会計基準(IAS)第1号「財務諸表の表示」(以下「IAS第1号」)第125項において開示が求められている「見積りの不確実性の発生要因」について、財務諸表利用者にとって有用性が高い情報として日本基準においても注記情報として開示を求めることを検討するよう要望が寄せられ、企業会計基準委員会において、会計上の見積りの開示に関する会計基準(以下「本会計基準」)が開発され、公表されたものです。

企業会計基準委員会の本会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、個々の注記を拡充するのではなく、原則(開示目的)を示したうえで、具体的な開示内容は企業が開示目的に照らして判断することとされ、開発にあたっては、IAS第1号第125項の定めを参考とすることとしたものです。

(2) 適用予定日

2021年8月期の年度末から適用します。

(会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準)

「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実について検討することが提言されたことを受け、企業会計基準委員会において、所要の改正を行い、会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準として公表されたものです。

なお、「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実を図るに際しては、関連する会計基準等の定めが明らかでない場合におけるこれまでの実務に影響を及ぼさないために、企業会計原則注解(注1-2)の定めを引き継ぐこととされております。

(2) 適用予定日

2021年8月期の年度末から適用します。

(会計上の見積りの変更)

(退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異の費用処理年数の変更)

退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当連結会計年度より費用処理年数を8年に変更しております。

なお、当該変更による当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各商業施設・直営店舗の営業時間の短縮及び臨時休業等が実施されたことにより、既存の店舗における稼働率が低下する等、売上高が減少し当社グループの業績に大きな影響を与えております。

このため、固定資産に関する減損損失の計上要否の判断、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行うにあたっては、当連結会計年度末日時点で入手可能な情報に基づき、翌連結会計年度末日以降に回復していくものと仮定して判断しております。

この結果、当連結会計年度において、繰延税金資産2億4千2百万円を取り崩しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期や、その影響を正確に予測することは困難であり、今後の状況によっては、当社グループの翌連結会計年度以降の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

※連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、前連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
受取手形	3,309千円	－千円

(連結損益計算書関係)

※1. 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
売上原価 (表示方法の変更)	22,018千円	171,338千円

棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より注記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の当該金額を注記しております。

※2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
従業員給料	3,652,453千円	3,682,617千円
福利厚生費	696,256	711,204
賃借料	175,379	170,811
減価償却費	177,911	185,822
退職給付費用	52,732	23,977
賞与引当金繰入額 (表示方法の変更)	89,342	78,693

前連結会計年度において、主要な費目として表示しておりませんでした「福利厚生費」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の当該金額を注記しております。

※3. 関係会社出資金売却益

前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

上海雅瑪都時裝有限公司の出資持分の譲渡によるものであります。

当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

該当事項はありません。

※4. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
建物及び構築物 (撤去費を含む)	19,224千円	4,391千円
その他	587	590

※5. 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

場所	用途	種類
—	事業用資産	無形固定資産 (商標権)
福岡県福岡市西区	店舗資産	建物及び構築物、有形固定資産その他 (工具、器具及び備品)

当社グループは、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分により資産のグルーピングを行っており、店舗資産及び賃貸用資産について個別物件をグルーピングの最小単位としております。

2017年より展開しております「Penfield (ペンフィールド)」事業において、事業計画の精査を行い、将来の回収可能性を保守的に検討した結果、当連結会計年度において、無形固定資産 (商標権) の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として396,843千円を特別損失に計上しております。

また、店舗における営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなる見込みである店舗の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に8,096千円 (建物及び構築物7,028千円、有形固定資産の

その他1,068千円) 計上しております。なお、減損損失の測定における回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスのため回収可能価額をゼロとみなしております。

当連結会計年度(自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

場所	用途	種類
—	事業用資産	無形固定資産(商標権)
神奈川県横浜市他9件	店舗資産等	建物及び構築物、有形固定資産その他(工具、器具及び備品)、投資その他の資産のその他(長期前払費用)

当社グループは、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分により資産のグルーピングを行っており、店舗資産及び賃貸用資産について個別物件をグルーピングの最小単位としております。

2018年より展開しております「Lightning Bolt(ライトニングボルト)」事業において、事業計画の精査を行い、将来の回収可能性を保守的に検討した結果、当連結会計年度において、無形固定資産(商標権)の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額81,583千円を減損損失として特別損失に計上しております。

また、店舗における営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなる見込みであるもの、または閉鎖が決定している店舗等の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額93,561千円(建物及び構築物73,159千円、有形固定資産のその他17,682千円、投資その他の資産のその他2,718千円)を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、減損損失の測定における回収可能価額は使用価値によっておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、当該店舗資産等の帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

※6. 過年度消費税等

前連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

当社において、消費税等の修正申告を行ったことに伴い発生した追加納付税額であります。

当連結会計年度(自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

該当事項はありません。

※7. 特別退職金

前連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

当社の連結子会社であるヤマトファッションサービス株式会社において、退職優遇制度の募集を実施したことによるものであります。

(連結包括利益計算書関係)

※その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△281,937千円	138,679千円
組替調整額	—	34,885
税効果調整前	△281,937	173,564
税効果額	85,826	△55,403
その他有価証券評価差額金	△196,110	118,161
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	△10,949	14,805
税効果額	3,350	△5,024
繰延ヘッジ損益	△7,599	9,780
為替換算調整勘定：		
当期発生額	3,705	—
組替調整額	△193,409	—
為替換算調整勘定	△189,703	—
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	4,500	△22,394
組替調整額	570	△25,183
税効果調整前	5,070	△47,577
税効果額	△1,551	14,558
退職給付に係る調整額	3,519	△33,018
その他の包括利益合計	△389,894	94,922

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	21,302,936	—	—	21,302,936
合計	21,302,936	—	—	21,302,936
自己株式				
普通株式(注)	754,206	507	—	754,713
合計	754,206	507	—	754,713

(注) 自己株式の増加507株は、単元未満株式の買取りによる増加507株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年11月22日 定時株主総会	普通株式	267,133	13	2018年8月31日	2018年11月26日
2019年4月5日 取締役会	普通株式	123,290	6	2019年2月28日	2019年4月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年11月22日 定時株主総会	普通株式	226,030	利益剰余金	11	2019年8月31日	2019年11月25日

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	21,302,936	—	—	21,302,936
合計	21,302,936	—	—	21,302,936
自己株式				
普通株式（注）	754,713	740	—	755,453
合計	754,713	740	—	755,453

（注）自己株式の増加740株は、単元未満株式の買取りによる増加740株であります。

2. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年11月22日 定時株主総会	普通株式	226,030	11	2019年8月31日	2019年11月25日
2020年4月10日 取締役会	普通株式	123,286	6	2020年2月29日	2020年4月28日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年11月20日 定時株主総会	普通株式	123,284	利益剰余金	6	2020年8月31日	2020年11月24日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
現金及び預金勘定	4,768,636千円	4,334,347千円
預金のうち預入期間が3ヶ月を超える定期預金等	—	—
有価証券勘定に含まれている追加型公社債投資信託	2,756,956	999,998
現金及び現金同等物	7,525,593	5,334,346

※2. 出資金の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

出資金の売却により、上海雅瑪都時裝有限公司が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに上海雅瑪都時裝有限公司出資金の売却価額と売却による収入は次のとおりであります。

流動資産	270,125千円
固定資産	58,680
流動負債	△197
固定負債	—
為替換算調整勘定	△193,409
関係会社出資金売却益	462,873
上海雅瑪都時裝有限公司出資金の売却価額	598,070
上海雅瑪都時裝有限公司現金及び現金同等物	△269,660
差引：売却による収入	328,410

当連結会計年度(自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

繊維製品製造販売業における汎用コンピューター及び周辺機器一式(工具、器具及び備品)であります。

(イ) 無形固定資産

繊維製品製造販売業におけるソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、余剰資金については主として安全性の高い金融資産で運用しております。

また、運転資金については銀行及び生命保険会社からの借入により調達しております。

デリバティブ取引は後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に公社債及び業務上の関係を有する企業の株式であり、発行体（取引先企業）の信用リスクや市場価格の変動リスクに晒されております。

差入保証金は、主に本店に係る賃貸借契約に基づく保証金であり、取引先の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形、買掛金及び電子記録債務は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。また、一部外貨建ての営業債務は為替リスクに晒されておりますが、先物為替予約取引を利用してヘッジしております。

借入金には長期運転資金に係る資金調達を目的としたものであり、このうち一部は金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性評価の方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計方針に関する事項(6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行に係るリスク）の管理

当社グループは、売上債権に係る不測の損害が生じないように、与信管理規程に与信限度額及び回収の条件等を定めております。また、事業統括本部では、経理部より配布される滞留期間別売掛金管理表と営業部門より提出される滞留先報告書に基づき、月次会で回収状況の確認及び指示を行っております。

運用目的の債券は、職務権限規程に従い個別に決裁を受ける体制となっており、格付けの高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引の相手先は、信用度の高い金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況を把握し、また、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、取引権限や限度額等を定めたデリバティブ管理規程に従い、実需の範囲内での取引を行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部門からの報告に基づき経理部が月次で資金繰計画を作成・管理するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等につきましては、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. を参照ください。）。

前連結会計年度（2019年8月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	4,768,636	4,768,636	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,603,984	1,603,984	—
(3) 有価証券	2,756,956	2,756,956	—
(4) 投資有価証券	4,615,720	4,615,720	—
(5) 差入保証金	114,964	116,117	1,152
資産計	13,860,262	13,861,415	1,152
(1) 支払手形及び買掛金	755,231	755,231	—
(2) 電子記録債務	2,927,244	2,927,244	—
(3) 長期借入金（※1）	964,957	965,867	910
負債計	4,647,432	4,648,343	910
デリバティブ取引（※2）	(16,421)	(16,421)	—

（※1）1年内返済予定の長期借入金は長期借入金に含めております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

当連結会計年度（2020年8月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	4,334,347	4,334,347	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,249,899	1,249,899	—
(3) 有価証券	999,998	999,998	—
(4) 投資有価証券	4,584,636	4,584,636	—
(5) 差入保証金	66,829	66,721	△107
資産計	11,235,712	11,235,604	△107
(1) 支払手形及び買掛金	479,729	479,729	—
(2) 電子記録債務	2,586,612	2,586,612	—
(3) 長期借入金（※1）	785,585	786,678	1,093
負債計	3,851,927	3,853,020	1,093
デリバティブ取引（※2）	(1,616)	(1,616)	—

（※1）1年内返済予定の長期借入金は長期借入金に含めております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 有価証券

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっており、債券その他は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

(5) 差入保証金

差入保証金の時価については、返還により発生する将来キャッシュ・フローを返還の期間までに対応する無リスクの利率で割り引いた現在価値から貸倒見積高を控除した価額によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
非上場株式	95,483	95,483

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券、(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (2019年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,768,636	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,603,984	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券(社債)	—	200,000	400,000	2,500,000
(2) その他	2,756,956	—	—	—
合計	9,129,577	200,000	400,000	2,500,000

差入保証金については返還期日を明確に把握できないため、償還予定額を記載しておりません。

当連結会計年度（2020年8月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,334,347	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,249,899	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券（社債）	—	200,000	300,000	2,600,000
(2) その他	999,998	—	—	—
合計	6,584,246	200,000	300,000	2,600,000

差入保証金については返還期日を明確に把握できないため、償還予定額を記載しておりません。

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2019年8月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	229,372	167,372	220,043	348,170	—	—
合計	229,372	167,372	220,043	348,170	—	—

当連結会計年度（2020年8月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	167,372	220,043	398,170	—	—	—
合計	167,372	220,043	398,170	—	—	—

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (2019年8月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,168,023	620,434	547,588
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	508,327	502,961	5,366
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	1,652,665	1,651,902	763
	小計	3,329,017	2,775,298	553,719
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	275,448	367,872	△92,423
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	2,512,350	2,605,366	△93,016
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	1,255,860	1,270,042	△14,181
	小計	4,043,659	4,243,281	△199,621
合計		7,372,676	7,018,579	354,097

(注)非上場株式 (連結貸借対照表計上額 95,483千円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度 (2020年8月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,190,886	501,277	689,609
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	201,155	200,000	1,155
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	1,058,015	1,055,587	2,428
	小計	2,450,057	1,756,864	693,192
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	248,681	284,897	△36,215
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	2,787,322	2,907,619	△120,297
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	98,574	107,592	△9,018
	小計	3,134,577	3,300,108	△165,530
合計		5,584,635	5,056,973	527,662

(注)非上場株式 (連結貸借対照表計上額 95,483千円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	171,957	60,482	—
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	171,957	60,482	—

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価の50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、回復可能性等を総合的に判断して必要と認められた額について減損処理を行うものとしております。

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

当連結会計年度において、有価証券について95,367千円（その他有価証券の株式95,367千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価の50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、回復可能性等を総合的に判断して必要と認められた額について減損処理を行うものとしております。

（デリバティブ取引関係）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度（2019年8月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度（2019年8月31日）		
			契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超（千円）	時価 （千円）
原則的処理方法	為替予約取引 買建 人民元 米ドル	買掛金	191,698	—	△15,996
		買掛金	16,236	—	△425
為替予約の振当処理	為替予約取引 買建 人民元	買掛金	11,500	—	(注) 2
合計			219,435	—	—

(注) 1. 時価等の算定方法

取引先金融機関から提示された時価等に基づき算定しております。

2. 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建金銭債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該買掛金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（2020年8月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度（2020年8月31日）		
			契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超（千円）	時価 （千円）
原則的処理方法	為替予約取引 買建 人民元 米ドル	買掛金 買掛金	49,403	—	△1,409
			15,973	—	△206
為替予約の振当処理	為替予約取引 買建 人民元	買掛金	12,798	—	(注) 2
合計			78,175	—	—

(注) 1. 時価等の算定方法

取引先金融機関から提示された時価等に基づき算定しております。

2. 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建金銭債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該買掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度（2019年8月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度（2019年8月31日）		
			契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超（千円）	時価 （千円）
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	178,290	158,250	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（2020年8月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度（2020年8月31日）		
			契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超（千円）	時価 （千円）
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	158,250	138,210	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

なお、確定給付企業年金制度については、2011年1月1日より、従来の適格退職年金制度から移行したものであり、すべて積立型制度であります。

上記以外に、従業員の退職等に際して、退職給付会計基準に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

また、当社及び国内連結子会社は、2015年12月1日より、確定拠出年金制度を開始いたしました。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
退職給付債務の期首残高	1,001,339千円	978,503千円
勤務費用	53,400	48,139
利息費用	11,014	10,763
数理計算上の差異の発生額	△13,756	12,433
退職給付の支払額	△73,494	△69,133
退職給付債務の期末残高	978,503	980,706

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
年金資産の期首残高	1,084,075千円	1,148,994千円
期待運用収益	21,681	22,979
数理計算上の差異の発生額	△9,256	△9,960
事業主からの拠出額	125,988	89,690
退職給付の支払額	△73,494	△69,133
年金資産の期末残高	1,148,994	1,182,571

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
積立型制度の退職給付債務	978,503千円	980,706千円
年金資産	△1,148,994	△1,182,571
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△170,491	△201,864
退職給付に係る資産	△170,491	△201,864
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△170,491	△201,864

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
勤務費用	53,400千円	48,139千円
利息費用	11,014	10,763
期待運用収益	△21,681	△22,979
数理計算上の差異の費用処理額	570	△25,183
確定給付制度に係る退職給付費用	43,303	10,739

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
数理計算上の差異	△5,070千円	47,577千円
合計	△5,070	47,577

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
未認識数理計算上の差異	78,081千円	30,503千円
合計	78,081	30,503

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
債券	44.5%	47.9%
株式	22.4	22.1
一般勘定	13.6	13.8
その他	19.5	16.2
合計	100.0	100.0

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
割引率	1.1%	1.1%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%
予想昇給率	1.7%	1.5%
一時金選択率	95.0%	95.0%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への拠出に係る費用認識額は、前連結会計年度9,429千円、当連結会計年度9,453千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産	15,802千円	68,232千円
投資有価証券	17,799	46,847
未払事業所税	6,388	6,412
未払事業税	18,514	7,249
未払費用	4,118	15,806
貸倒引当金	10,676	9,019
賞与引当金	27,470	24,174
返品調整引当金	3,978	2,754
ポイント引当金	1,380	1,712
店舗閉鎖損失引当金	—	6,502
長期未払金	2,386	2,386
電話加入権	4,880	4,453
減損損失	1,027,648	1,049,097
資産除去債務	14,545	20,654
税務上の繰越欠損金(注)2	—	233,860
その他	14,349	9,972
繰延税金資産小計	1,169,940	1,509,137
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	—	△233,860
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△941,612	△1,263,325
評価性引当額小計(注)1	△941,612	△1,497,185
繰延税金資産合計	228,327	11,952
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△91,760	△147,163
有形固定資産	△4,937	△530
退職給付に係る資産	△51,705	△61,305
繰延税金負債合計	△148,402	△209,000
繰延税金資産(負債)の純額	79,924	△197,048

(注) 1. 評価性引当額が555,573千円増加しております。これは、当社において、繰延税金資産の回収可能性を見直した結果、繰延税金資産を取り崩したことが主な原因であります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2019年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2020年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金(※1)	—	—	—	—	—	233,860	233,860
評価性引当額	—	—	—	—	—	△233,860	△233,860
繰延税金資産	—	—	—	—	—	—	—

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当連結会計年度 (2020年8月31日)
法定実効税率	30.6%	—%
(調整)		
交際費等の永久差異の項目	1.7	—
住民税均等割	3.7	—
評価性引当額	△12.2	—
連結会社の税率差異	0.4	—
関係会社売却に伴う連結調整	△1.2	—
その他	0.1	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.1	—

(注) 当連結会計年度は、税金等調整前当期純損失であるため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社は、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル等を保有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は165,446千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は158,414千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	4,269,200	4,280,976
期中増減額	11,776	△2,289
期末残高	4,280,976	4,278,687
期末時価	5,466,000	5,947,574

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は東京本社設備更新工事(43,778千円)であり、減少額は減価償却費(35,751千円)であります。当連結会計年度の主な減少額は減価償却費(37,031千円)であります。

3. 時価の算定方法

当連結会計年度末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づいて自社で算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象としているものであります。

当社グループは、カジュアルウェア中心のアパレル企業であり、衣料品の生産及び販売並びにこれら製品に関連した繊維製品製造販売業並びに不動産賃貸事業を営んでおります。繊維製品製造販売業の事業セグメントは社内業績管理単位である製品区分別の事業部門及び子会社を基礎としておりますが、製品の内容及び市場等の類似性をもとに集約しております。その結果、「繊維製品製造販売業」と「不動産賃貸事業」を報告セグメントとしております。

「繊維製品製造販売業」は、カジュアルウェアとして、カットソーニット、布帛シャツ、横編セーター、アウター、ボトム、その他小物雑貨を取り扱っております。

「不動産賃貸事業」は自社物件の有効活用として、主にオフィスビルの賃貸を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は損失ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1, 3	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	繊維製品製造販売業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,505,534	312,762	16,818,297	—	16,818,297
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	16,505,534	312,762	16,818,297	—	16,818,297
セグメント利益	1,124,445	165,446	1,289,892	△707,201	582,690
セグメント資産	8,002,675	4,280,976	12,283,651	11,111,278	23,394,930
その他の項目					
減価償却費	177,911	35,751	213,663	—	213,663
減損損失	404,940	—	404,940	—	404,940
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	216,898	44,093	260,991	—	260,991

(注) 1. セグメント利益の調整額△707,201千円は、各報告セグメントに配分していない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント資産のうち、調整額の項目に含めた全社資産の総額は、11,111,278千円であり、その主なものは、当社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）等であります。

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1, 3	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	繊維製品製造販売業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,946,177	306,208	14,252,386	—	14,252,386
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	13,946,177	306,208	14,252,386	—	14,252,386
セグメント利益又は損失 (△)	△371,478	158,414	△213,063	△710,861	△923,925
セグメント資産	7,716,178	4,278,687	11,994,865	8,922,824	20,917,690
その他の項目					
減価償却費	185,822	37,031	222,853	—	222,853
減損損失	175,144	—	175,144	—	175,144
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	250,942	34,794	285,737	—	285,737

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△710,861千円は、各報告セグメントに配分していない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. セグメント資産のうち、調整額の項目に含めた全社資産の総額は、8,922,824千円であり、その主なものは、当社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）等であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結財務諸表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオングループ	4,518,722	繊維製品製造販売業
株式会社イトーヨーカ堂	4,133,305	繊維製品製造販売業
ユニー株式会社	2,373,835	繊維製品製造販売業

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結財務諸表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオングループ	3,914,741	繊維製品製造販売業
株式会社イトーヨーカ堂	3,242,172	繊維製品製造販売業
ユニー株式会社	1,896,636	繊維製品製造販売業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）	当連結会計年度 （自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）
1株当たり純資産	844.34円	768.93円
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失（△）	25.77円	△63.05円

（注） 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、前連結会計年度は潜在株式が存在しないため記載しておりません。当連結会計年度は1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）	当連結会計年度 （自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失（△）（千円）	529,505	△1,295,504
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失（△）（千円）	529,505	△1,295,504
普通株式の期中平均株式数（千株）	20,548	20,547

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	229,372	167,372	0.7%	—
1年以内に返済予定のリース債務	4,587	8,831	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	735,585	618,213	0.7%	2021年9月～ 2023年7月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	11,244	21,703	—	2021年9月～ 2029年2月
その他有利子負債	—	—	—	—
計	980,789	816,119	—	—

(注) 1. 平均利率は、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は次のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	220,043	398,170	—	—
リース債務	6,290	6,017	5,898	2,251

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度（自 2019年9月1日 至 2020年8月31日）

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	4,311,477	8,702,066	10,814,742	14,252,386
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期(当期)純損失(△)(千円)	237,404	119,098	△472,682	△1,028,279
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△)(千円)	156,519	68,027	△743,793	△1,295,504
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失(△)(円)	7.62	3.31	△36.20	△63.05

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)(円)	7.62	△4.31	△39.51	△26.85

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年8月31日)	当事業年度 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,499,468	4,067,436
受取手形	※2 32,295	37,093
売掛金	1,571,688	1,212,805
有価証券	2,756,956	999,998
商品及び製品	2,059,932	2,292,237
仕掛品	—	92
その他	※1 158,296	※1 220,051
貸倒引当金	△2,041	△1,804
流動資産合計	11,076,598	8,827,912
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,446,758	1,302,090
構築物	10,964	9,735
機械及び装置	631	148,365
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	97,379	82,427
土地	5,179,068	5,179,068
リース資産	15,881	26,418
建設仮勘定	21,936	—
有形固定資産合計	6,772,619	6,748,106
無形固定資産		
無形固定資産	111,354	25,626
投資その他の資産		
投資有価証券	4,711,203	4,680,119
関係会社株式	30,000	30,000
差入保証金	114,964	66,779
前払年金費用	92,410	171,361
繰延税金資産	100,693	—
その他	120,956	114,815
貸倒引当金	△32,849	△27,671
投資その他の資産合計	5,137,379	5,035,403
固定資産合計	12,021,354	11,809,136
資産合計	23,097,952	20,637,048

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年8月31日)	当事業年度 (2020年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	37,806	—
買掛金	717,425	479,729
電子記録債務	2,927,244	2,586,612
1年内返済予定の長期借入金	229,372	167,372
リース債務	4,587	8,831
未払金	※1 414,347	※1 202,652
未払法人税等	140,564	—
未払消費税等	83,163	29,221
未払費用	248,375	254,126
賞与引当金	85,967	76,275
返品調整引当金	13,000	9,000
ポイント引当金	4,511	5,597
店舗閉鎖損失引当金	—	21,251
その他	105,955	133,579
流動負債合計	5,012,320	3,974,250
固定負債		
長期借入金	735,585	618,213
リース債務	11,244	21,703
長期末払金	10,232	11,089
長期預り保証金	214,681	214,107
繰延税金負債	—	200,131
資産除去債務	47,534	33,669
固定負債合計	1,019,277	1,098,914
負債合計	6,031,598	5,073,164
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,917,652	4,917,652
資本剰余金		
資本準備金	1,229,413	1,229,413
その他資本剰余金	3,759,279	3,759,279
資本剰余金合計	4,988,692	4,988,692
利益剰余金		
その他利益剰余金		
配当平均積立金	500,000	500,000
別途積立金	5,700,000	5,700,000
繰越利益剰余金	1,072,518	△557,609
利益剰余金合計	7,272,518	5,642,390
自己株式	△363,450	△363,733
株主資本合計	16,815,413	15,185,001
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	262,337	380,498
繰延ヘッジ損益	△11,396	△1,616
評価・換算差額等合計	250,940	378,882
純資産合計	17,066,354	15,563,883
負債純資産合計	23,097,952	20,637,048

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当事業年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
売上高		
商品及び製品売上高	16,505,534	13,946,177
不動産賃貸収入	312,762	306,208
売上高合計	16,818,297	14,252,386
売上原価		
商品及び製品売上原価	9,031,937	8,102,945
不動産賃貸原価	147,315	147,793
売上原価合計	9,179,253	8,250,738
売上総利益	7,639,043	6,001,647
返品調整引当金戻入額	15,000	13,000
返品調整引当金繰入額	13,000	9,000
差引売上総利益	7,641,043	6,005,647
販売費及び一般管理費	※1,※2 7,112,857	※1,※2 6,974,808
営業利益又は営業損失(△)	528,186	△969,161
営業外収益		
受取利息	43	34
有価証券利息	26,863	22,343
受取配当金	※1 61,926	※1 68,268
雇用調整助成金	—	85,140
その他	※1 32,454	※1 28,621
営業外収益合計	121,288	204,406
営業外費用		
支払利息	7,322	6,583
貸倒引当金繰入額	4,500	—
その他	5,849	10,866
営業外費用合計	17,672	17,450
経常利益又は経常損失(△)	631,802	△782,204
特別利益		
関係会社出資金売却益	※3 192,067	—
投資有価証券売却益	—	60,482
特別利益合計	192,067	60,482
特別損失		
固定資産除却損	※4 19,812	※4 4,982
減損損失	404,940	175,144
過年度消費税等	※5 18,755	—
投資有価証券評価損	—	95,367
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	21,251
特別損失合計	443,507	296,745
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	380,362	△1,018,468
法人税、住民税及び事業税	161,321	21,947
法人税等調整額	△27,720	240,395
法人税等合計	133,600	262,343
当期純利益又は当期純損失(△)	246,762	△1,280,811

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					配当平均積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	4,917,652	1,229,413	3,759,279	4,988,692	500,000	5,700,000	1,216,180	7,416,180
当期変動額								
剰余金の配当							△390,424	△390,424
当期純利益							246,762	246,762
自己株式の取得								—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								—
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	△143,661	△143,661
当期末残高	4,917,652	1,229,413	3,759,279	4,988,692	500,000	5,700,000	1,072,518	7,272,518

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	△363,237	16,959,289	458,447	△3,796	454,650	17,413,940
当期変動額						
剰余金の配当		△390,424			—	△390,424
当期純利益		246,762			—	246,762
自己株式の取得	△213	△213			—	△213
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		—	△196,110	△7,599	△203,709	△203,709
当期変動額合計	△213	△143,875	△196,110	△7,599	△203,709	△347,585
当期末残高	△363,450	16,815,413	262,337	△11,396	250,940	17,066,354

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
				配当平均積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	4,917,652	1,229,413	3,759,279	4,988,692	500,000	5,700,000	1,072,518	7,272,518
当期変動額								
剰余金の配当							△349,317	△349,317
当期純損失（△）							△1,280,811	△1,280,811
自己株式の取得								—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								—
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	△1,630,128	△1,630,128
当期末残高	4,917,652	1,229,413	3,759,279	4,988,692	500,000	5,700,000	△557,609	5,642,390

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	△363,450	16,815,413	262,337	△11,396	250,940	17,066,354
当期変動額						
剰余金の配当		△349,317			—	△349,317
当期純損失（△）		△1,280,811			—	△1,280,811
自己株式の取得	△282	△282			—	△282
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		—	118,161	9,780	127,941	127,941
当期変動額合計	△282	△1,630,411	118,161	9,780	127,941	△1,502,470
当期末残高	△363,733	15,185,001	380,498	△1,616	378,882	15,563,883

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 子会社株式 移動平均法による原価法
- ② その他有価証券
時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
時価のないもの 移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年12月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～47年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(3) 返品調整引当金

商品及び製品の返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案し、将来の返品に伴う損失予想額を計上しております。

(4) ポイント引当金

ポイント制度に基づき顧客に付与したポイントの利用に備えるため、当事業年度末における将来利用見込額を計上しております。

(5) 店舗閉鎖損失引当金

店舗退店に伴い発生する損失に備え、解約違約金等の退店関連損失見込額を計上しております。

(6) 退職給付引当金(前払年金費用)

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、発生年度において一括償却しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(8年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

なお、当事業年度末における年金資産が、退職給付債務から未認識数理計算上の差異等を控除した額を超過する場合には、前払年金費用として「投資その他の資産」に計上しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合には特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

a. ヘッジ手段……為替予約

ヘッジ対象……外貨建債権債務及び外貨建予定取引

b. ヘッジ手段……金利スワップ取引

ヘッジ対象……借入金

(3) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規程等を定めた社内管理規程に基づき、為替相場変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

外貨建予定取引に係る為替予約については、予定取引の主要な取引条件の予測可能性及びその実行可能性を検討し、有効性の評価を行っております。

なお、振当処理によっている外貨建債権債務に係る為替予約は振当処理の要件を満たしていることを、特例処理によっている金利スワップ取引は特例処理の要件を満たしていることを確認しており、その判定をもって有効性の評価に代えております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(会計上の見積りの変更)

(退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異の費用処理年数の変更)

退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当事業年度より費用処理年数を8年に変更しております。

なお、当該変更による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各商業施設・直営店舗の営業時間の短縮及び臨時休業等が実施されたことにより、既存の店舗における稼働率が低下する等、売上高が減少し当社の業績に大きな影響を与えております。

このため、固定資産に関する減損損失の計上要否の判断、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行うにあたっては、当事業年度末日時点で入手可能な情報に基づき、翌事業年度末日以降に回復していくものと仮定して判断しております。

この結果、当事業年度において、繰延税金資産2億4千2百万円を取り崩しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期や、その影響を正確に予測することは困難であり、今後の状況によっては、当社の翌事業年度以降の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2019年8月31日)	当事業年度 (2020年8月31日)
短期金銭債権	2,271千円	1,674千円
短期金銭債務	47,118	38,025

※2. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、前事業年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年8月31日)	当事業年度 (2020年8月31日)
受取手形	3,309千円	一千円

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当事業年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
営業取引による取引高		
業務委託費	502,202千円	461,596千円
営業取引以外の取引高	21,705	27,598

※2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度74%、当事業年度76%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度26%、当事業年度24%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当事業年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
従業員給料	3,501,577千円	3,539,268千円
業務委託費	818,453	770,684
減価償却費	177,373	185,751
賃借料	175,379	170,811
賞与引当金繰入額	85,967	76,275
退職給付費用	41,388	12,708

※3. 関係会社出資金売却益

前事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

上海雅瑪都時裝有限公司の出資持分の譲渡によるものであります。

当事業年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

該当事項はありません。

※4. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	当事業年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)
建物 (撤去費を含む)	19,224千円	4,391千円
その他	587	590

※5. 過年度消費税等

前事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

当社において、消費税等の修正申告を行ったことに伴い発生した追加納付税額であります。

当事業年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

前事業年度 (2019年8月31日現在)

子会社株式 (貸借対照表計上額 30,000千円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度 (2020年8月31日現在)

子会社株式 (貸借対照表計上額 30,000千円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年8月31日)	当事業年度 (2020年8月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産	15,802千円	68,232千円
投資有価証券	17,799	46,847
未払事業所税	6,388	6,412
未払事業税	17,194	7,187
未払費用	3,944	4,750
貸倒引当金	10,676	9,019
賞与引当金	26,305	23,340
返品調整引当金	3,978	2,754
ポイント引当金	1,380	1,712
店舗閉鎖損失引当金	—	6,502
長期未払金	2,386	2,386
電話加入権	4,880	4,453
減損損失	1,027,648	1,049,097
資産除去債務	14,545	20,654
税務上の繰越欠損金	—	233,860
その他	14,349	9,972
繰延税金資産小計	1,167,280	1,497,185
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	—	△233,860
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△941,612	△1,263,325
評価性引当額小計	△941,612	△1,497,185
繰延税金資産合計	225,668	—
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△91,760	△147,163
有形固定資産	△4,937	△530
前払年金費用	△28,277	△52,436
繰延税金負債合計	△124,974	△200,131
繰延税金資産（負債）の純額	100,693	△200,131

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年8月31日)	当事業年度 (2020年8月31日)
法定実効税率	30.6%	—%
(調整)		
交際費等の永久差異の項目	1.6	—
住民税均等割	6.6	—
評価性引当額	△3.6	—
その他	0.1	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.1	—

(注) 当事業年度は、税引前当期純損失であるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	当期末 残高	減価償却 累計額
有形 固定資産	建物	1,446,758	59,242	73,339 (73,159)	130,570	1,302,090	6,347,308
	構築物	10,964	—	—	1,229	9,735	175,039
	機械及び装置	631	174,911	—	27,176	148,365	30,116
	車両運搬具	0	—	—	—	0	399
	工具、器具及び備品	97,379	41,310	18,068 (17,682)	38,194	82,427	409,216
	土地	5,179,068	—	—	—	5,179,068	—
	リース資産	15,881	17,413	—	6,876	26,418	97,127
	建設仮勘定	21,936	95	22,032	—	—	—
	計	6,772,619	292,974	113,440 (90,842)	204,047	6,748,106	7,059,208
無形 固定資産	その他	111,354	14,795	81,788 (81,583)	18,735	25,626	—
	計	111,354	14,795	81,788 (81,583)	18,735	25,626	—

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 有形固定資産の「機械及び装置」の「当期増加額」のうち、主なものは、物流自動ソーターの導入158,743千円によるものであります。

3. 有形固定資産の「工具、器具及び備品」の「当期増加額」のうち、主なものは、物流自動ソーターの導入15,233千円によるものであります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	34,890	1,804	7,218	29,475
賞与引当金	85,967	76,275	85,967	76,275
返品調整引当金	13,000	9,000	13,000	9,000
ポイント引当金	4,511	5,597	4,511	5,597
店舗閉鎖損失引当金	—	21,251	—	21,251

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額2,041千円及び個別に貸倒引当金を計上した会社の清算による取崩等によるもの5,177千円であります。

2. 返品調整引当金の当期減少額は、返品実績率の見直しによる洗替額であります。

3. ポイント引当金の当期減少額は、ポイント失効分及びポイント利用実績率の見直しによる洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	9月1日から8月31日まで						
定時株主総会	11月中						
基準日	8月31日						
剰余金の配当の基準日	2月末日 8月31日						
1単元の株式数	100株						
単元未満株式の買取り							
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部						
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社						
取次所	_____						
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額						
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載いたします。そのアドレスは次のとおりです。 公告掲載URL http://www.yamatointr.co.jp/						
株主に対する特典	<p>期末現在の単元株主に対し、次のとおり自社製品を贈呈いたします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所有株式数</th> <th>贈呈内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300株以上 500株未満</td> <td>一律1,000円相当</td> </tr> <tr> <td>500株以上</td> <td>一律3,000円相当</td> </tr> </tbody> </table>	所有株式数	贈呈内容	300株以上 500株未満	一律1,000円相当	500株以上	一律3,000円相当
所有株式数	贈呈内容						
300株以上 500株未満	一律1,000円相当						
500株以上	一律3,000円相当						

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第73期）（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）2019年11月25日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年11月25日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第74期第1四半期）（自 2019年9月1日 至 2019年11月30日）2020年1月14日近畿財務局長に提出

（第74期第2四半期）（自 2019年12月1日 至 2020年2月29日）2020年4月14日近畿財務局長に提出

（第74期第3四半期）（自 2020年3月1日 至 2020年5月31日）2020年7月15日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2019年11月26日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年11月20日

ヤマト インターナショナル株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 崎 育 利 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 賢 治 印

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているヤマト インターナショナル株式会社の2019年9月1日から2020年8月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ヤマト インターナショナル株式会社及び連結子会社の2020年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

<内部統制監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ヤマト インターナショナル株式会社の2020年8月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、ヤマト インターナショナル株式会社が2020年8月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年11月20日

ヤマト インターナショナル株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 崎 育 利 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 賢 治 印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているヤマト インターナショナル株式会社の2019年9月1日から2020年8月31日までの第74期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ヤマト インターナショナル株式会社の2020年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。